

平成23年度

上富良野町教育委員会点検・評価報告書

平成24年9月

上富良野町教育委員会

目 次

I	教育委員会点検・評価の概要	1
II	教育委員会の活動状況	3
	(1) 教育委員会の活動	3
	(2) 教育委員会議	5
	(3) 学校訪問、各種行事、研修会等への参加	10
	(4) 教育委員会議等の評価	11
III	「教育行政執行方針」に基づく点検・評価	12
	(1) 学校教育班関係	12
	(2) 社会教育班関係	32
IV	教育行政評価委員会の意見等について	59
資料 1	上富良野町教育委員会教育行政評価委員会要綱	61
資料 2	上富良野町教育委員会教育行政評価委員会委員の構成	62
資料 3	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	63
資料 4	平成 23 年度教育行政執行方針	64

教育委員会点検・評価報告の概要

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成 20 年 4 月から、教育委員会の責任体制の明確化を図るため、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を公表するものです。

2 目的

地教行法第 27 条の規定に基づき、教育委員会は、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価し、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り、町民への説明責任を果たすことを目的とします。

3 点検・評価の内容

教育委員会は、平成 23 年第 1 回定例町議会において、「平成 23 年度教育行政執行方針」に示した事業の実績をまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に内部評価を行い、学識経験者の識見を活用するため教育行政評価委員会からの意見を聴取し、今後の課題や対応策をまとめ、点検・評価報告書を作成し、議会に提出・公開し、町民に対して公表します。

4 議会への報告

議会への報告については、「上富良野町教育委員会点検・評価報告書」として、議会に提出し、その後に公表します。

5 町民への公表

町民への公表に関しては、議会に提出後に町役場の情報コーナーに「上富良野町教育委員会点検・評価報告書」を置き、閲覧できるようにします。

6 評価の手法

- ① 評価にあたっての着眼点
 - ・教育委員会の活動状況について
 - ・平成 23 年度教育行政執行方針に示した事務事業について
- ② 評価対象事業

平成 23 年度に実施した事業の内、教育委員会が所管する 4 5 の事業を対象としました。
- ③ 評価方法

教育行政点検評価表により、「事業名（評価項目）」・「細事業名（細項目）」・「事業の目的」・「推進目標」・「事業の概要」・「事業年度」・「事業費」・「検証内容（必要

性・有効性・費用対効果・方向性)」「評価(達成度・効果度)」「今後の課題」「改善策」を明らかにし、必要性・有効性・効果性などを各分野別において評価を行い、これにより、問題点を明らかにし、課題や具体的な改善内容を見出し、今後の方向性を検討するとともに、教育委員会が目指す方針に沿って教育行政が執行されているかの達成度・効果度に着目して総合評価を行いました。

④ 評価結果(事務事業評価)

平成23年度の点検・評価の結果について、下記の評価基準A～Dの4段階で集計を行いました。

第1表 行政評価(事務事業評価 達成度)

	A	B	C	D
件数	18	27		
構成比(%)	40.0	60.0		

(A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する)

第2表 行政評価(事務事業評価 効果度)

	A	B	C	D
件数	31	14		
構成比(%)	68.9	31.1		

(A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する)

第3表 総合評価

	A	B	C	D
件数	23	22		
構成比(%)	51.1	48.9		

(A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止)

教育委員会の活動状況

平成23年度の教育委員会の活動について「教育委員会議」「学校訪問」「研修」などの項目に分け、教育委員会自身による点検を行った。

(1) 教育委員会の活動

教育委員会議については、毎月1回を原則に開催し、必要に応じて開催した。また、教育委員会議を開催する都度に協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議した。教育委員会議については、開催予定について告示し、会議の内容等については役場情報コーナーに提示するとともにホームページにも掲載している。

以下、平成23年度の主な活動を示し、それぞれの活動内容について報告する。

平成23年度教育委員会活動一覧

月 日 (曜日)	活 動 内 容
4月 4日 (月)	平成23年度上富良野町教職員着任式
4月 6日 (水)	町内小中学校入学式
4月 7日 (木)	いしずえ大学入学式
4月 8日 (金)	道立上富良野高等学校入学式、高田幼稚園入園式
4月20日 (水)	平成23年第4回教育委員会議
4月22日 (金)	道立上富良野高等学校教育振興会総会
4月28日 (木)	上川管内教育委員会連合会総会・委員研修会
5月22日 (日)	上富良野小学校運動会
5月28日 (土)	上富良野中学校体育大会
5月30日 (月)	青少年の健全育成を進める会総会
5月31日 (火)	平成23年第5回教育委員会議
6月 4日 (土)	東中小・中学校運動会
	上富良野西小学校運動会
6月 7日 (火)	学校経営訪問指導 (上中、江幌小)
6月 8日 (水)	学校経営訪問指導 (上小、上西小、東中小)
6月11日 (土)	江幌小学校運動会
6月21・22日 (火・水)	町定例町議会
6月29日 (水)	平成23年第6回教育委員会議
7月 7日 (木)	第48回北海道市町村教育委員研修会
7月29日 (金)	平成23年第7回教育委員会議
8月29日 (月)	臨時町議会
	平成23年度なかよしサミット
	平成23年第8回教育委員会議
8月31日 (水)	教育行政評価委員会
9月 4日 (日)	第56回北海道吹奏楽コンクール北海道大会
9月26日 (月)	平成23年第9回教育委員会議
9月27・28日 (火・水)	町定例町議会
10月 5日 (水)	平成23年第10回教育委員会議

10月17日(月)	学校経営研修会(上中・東中中)
10月18日(火)	学校経営研修会(江幌小)
10月26日(水)	北海道町村教育委員会連合会教育長部会研修会
10月27日(木)	平成23年第11回教育委員会議
	教育委員会学校訪問(上小、東中小、江幌小、東中中)
10月31日(月)	教育委員会学校訪問(上西小、上中)
11月3日(木)	町表彰式及び町総合文化祭
11月4日(金)	札幌上富良野会総会
11月5日(土)	上富良野西小学校チャレンジ博覧会
11月10・11日(木・金)	上川管内教育委員会連合会第2回委員研修会
11月16~18日(水~金)	教育委員研修旅行
11月24日(木)	平成23年第12回教育委員会議
11月28日(月)	臨時町議会
11月30日(水)	上富良野高校振興会役員会
12月13・14日(火・水)	町定例町議会
12月28日(水)	平成22年第13回教育委員会議
1月5日(木)	町民新年交礼会
1月8日(日)	成人式
1月23日(月)	平成24年第1回教育委員会議
1月30日(月)	臨時町議会
2月14日(火)	平成23年度上富良野町教育推進会議
	上川南部教育委員会委員研修会
2月21日(火)	平成24年第2回教育委員会議
2月29日(水)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(上高)
3月1日(木)	道立上富良野高等学校卒業式
	町教育賞・教育奨励賞表彰式(江幌小)
	いしずえ大学卒業式
3月5日(月)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(高田幼稚園)
	町教育賞・教育奨励賞表彰式(東中小)
3月6日(火)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(上小)
3月7日(水)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(上西小)
3月8日(木)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(上中・東中中)
3月8日(木)~23日(金)	町定例町議会出席(8・9・14・15・23)
3月11日(日)	上富良野中学校・東中中学校卒業式
3月15日(木)	高田幼稚園卒園式
3月19日(月)	各小学校卒業式
3月28日(水)	平成23年度上富良野町教職員離任式出席
	平成24年第3回教育委員会議

(2) 教育委員会議

次に掲げる事項は上富良野町教育委員会事務委任規則（昭和48年3月19日教育委員会規則第1号）により、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- ① 学校教育又は社会教育に関する一般方針を定めること。
- ② 学校、公民館、図書館、郷土館、その他教育機関の設置及び廃止に関すること。
- ③ 1件100万円を超える教育財産の取得を申し出ること。
- ④ 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- ⑤ 道費負担教職員の職務の一般方針を定める及び懲戒を行うこと。
- ⑥ 前2号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- ⑦ 教育長、教育振興課長、主幹、施設長、指導主事、社会教育主事及びその他教育機関の長の任免を行うこと。
- ⑧ 学校、その他教育機関の敷地の選定及び変更に関すること。
- ⑨ 1件1,000万円以上の工事の計画を策定すること。
- ⑩ 条例、規則及び規程の制定、改廃に関すること。
- ⑪ 条例又は規則に定める委員の委嘱に関すること。
- ⑫ 教育費予算、その他議会の議決を経るべき議案について、町長に意見を申し出ること。
- ⑬ 校長、教員、その他教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- ⑭ 文化財の指定及び解除に関すること。
- ⑮ 通学区域の設定及び変更に関すること。
- ⑯ 児童生徒の出席停止命令の手続きに関すること
- ⑰ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること
- ⑱ その他委員会において必要と認めたこと。

教育委員会議の開催状況と議案

会議名	開催日	議 案 等
平成23年 第4回 教育委員会	4月20日(水)	議事案件 1 上富良野町立学校管理規則の一部改正について 2 上富良野町立学校職員服務規程の一部改正について 3 上富良野町学校評議員の委嘱について 4 上富良野町就学指導委員会委員の任命について 5 上富良野町体育指導委員の解嘱、委嘱について 6 上富良野町放課後子どもプラン事業運営協議会委員の委嘱について 7 上富良野町社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について 8 上富良野町文化財保護委員の解嘱、委嘱について 9 平成23年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 報告案件 1 工事等の発注状況について 2 上富良野町読書普及事業実施要綱の制定について 3 上富良野町郷土誌等発行補助金交付要綱の制定について

平成 23 年 第 5 回 教育委員会	5 月 31 日(火)	議事案件 1 平成 2 3 年度上富良野町一般会計(教育費)の補正予算について 2 平成 2 3 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 報告案件 1 工事等の発注状況について 2 町立小中学校教職員の人事等について 3 上富良野町教育委員会事務局職員の人事発令について
平成 23 年 第 6 回 教育委員会	6 月 29 日(水)	議事案件 1 平成 2 3 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 2 上富良野町学校管理規則の一部改正について 報告案件 1 工事等の発注について
平成 23 年 第 7 回 教育委員会	7 月 29 日(金)	議事案件 1 上富良野町集会施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について 2 上富良野町教育委員会表彰規則の一部改正について 3 上富良野町教育委員会表彰審査会委員の委嘱について 4 平成 2 4 年度から使用する中学校教科用図書の採択について 5 平成 2 4 年度から使用する小学校教科用図書の採択について 報告案件 1 工事等の発注状況について 2 町立小中学校教職員の人事等について 3 上富良野町教育委員会事務局職員の人事発令について
平成 23 年 第 8 回 教育委員会	8 月 29 日(月)	議事案件 1 平成 2 3 年度上富良野町一般会計(教育費)の補正予算について 2 平成 2 2 年度上富良野町教育委員会点検・評価報告について 報告案件 1 工事等の発注状況について 2 町立小中学校教職員の人事等について
平成 23 年 第 9 回 教育委員会	9 月 26 日(月)	議事案件 1 平成 2 3 年度上富良野町教育委員会表彰受賞者の決定について 2 平成 2 3 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 報告案件 1 工事等の発注状況について 2 上富良野町特別支援教育連絡協議会設置要綱の全部改正について
平成 23 年 第 10 回 教育委員会	10 月 5 日(水)	選任案件 1 上富良野町教育委員会教育委員長及び委員長職務代理者の選任について 報告案件 1 平成 2 3 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 議事案件 1 上富良野町教育委員会委員の任命について
平成 23 年 第 11 回 教育委員会	10 月 27 日(木)	議事案件 1 平成 2 3 年度上富良野町教育委員会表彰受賞者(追加分)の決定について

平成 23 年 第 12 回 教育委員会	11 月 24 (木)	議事案件 1 平成 2 3 年度上富良野町一般会計 (教育費) 補正予算について 報告案件 1 町立小中学校教職員の平成 2 3 年 1 2 月期における勤勉手当の給与決定手続きについて 2 事務主幹の配置学校について
平成 23 年 第 13 回 教育委員会	12 月 28 日(水)	議事案件 1 上富良野町体育指導委員に関する規則の一部を改正する規則について 2 上富良野町スポーツ指導員設置規則を廃止する規則について 3 上富良野町体育指導委員の会議運営に関する規定の一部を改正する規程について
平成 24 年 第 1 回 教育委員会	1 月 23 日(月)	議事案件 1 町立学校職員の処分の内申について 2 町立学校職員の処分の内申についての規則の一部改正について 3 平成 2 3 年度一般会計(教育費)の補正予算について 報告案件 1 上富良野町体育指導委員推薦基準の一部改正について
平成 24 年 第 2 回 教育委員会	2 月 21 日(火)	議事案件 1 平成 2 3 年度上富良野町一般会計 (教育費) 補正予算について 2 平成 2 4 年度上富良野町教育行政執行方針(案)について 3 平成 2 4 年度上富良野町一般会計(教育関係費)の予算について 4 上富良野町公民館条例の一部改正について 5 上富良野町社会教育委員に関する条例の一部改正について 6 上富良野町社会教育委員会議運営規則の一部改正について 7 上富良野町子ども読書推進計画について 8 平成 2 3 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 9 富良野広域連合規約の変更に伴う意見聴取について 10 上富良野小学校改築基本計画(案)の承認について 11 平成 2 3 年度上富良野町教育賞及び教育奨励賞受賞者の決定について 報告案件 1 上富良野町人材育成派遣事業補助金交付要綱の一部改正について 2 上富良野町立学校学習活動交付金交付要綱の一部改正について 3 上富良野町就学援助要綱の一部改正について
平成 24 年 第 3 回 教育委員会	3 月 28 日(水)	議事案件 1 町立小中学校教職員の人事異動の内申について 2 上富良野町教育委員会事務局職員の人事発令について 3 上富良野町教育委員会事務局等組織規則の一部改正について 4 上富良野町教育委員会事務局庶務規程の一部を改正する規程について 報告案件 1 工事等の発注状況等について 2 町立小中学校教職員の人事等について 3 上富良野町図書館及び学校図書室相互貸借取扱要領の制定について 4 上富良野町私立幼稚園特別活動振興事業補助金交付要綱の一部改正について

教育委員会協議会開催状況等

開催日	協議事項等
4月20日(水)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業(年間)計画について 2 平成23年度上川管内教育委員会連合会総会並びに第1回委員研修会の開催について 3 平成23年度上富良野町内小中学校行事予定一覧表について 4 その他
5月31日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業報告(4・5月)及び社会教育事業計画(6～8月)について 2 第48回北海道市町村教育委員研修会の開催について 3 平成22年度図書館利用統計書について 4 その他
6月29日(水)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業等報告(6月)及び社会教育事業計画(7～11月)について 2 平成23年度放課後子どもプラン事業登録申込状況及び利用状況について 3 社会教育施設整備について 4 上富良野町住生活基本計画策定委員会委員の推薦について 5 その他
7月29日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業報告(7月)及び社会教育事業計画(8～11月)について 2 上富良野小学校改築基本設計業務委託について 3 上富良野町教育委員会表彰審査要項について 4 平成22年度上富良野町教育委員会点検・評価報告について 5 その他
8月29日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業報告(8月)及び社会教育事業計画(9月～11月)について 2 交通安全町民集会開催依頼について 3 平成23年度教育委員学校訪問の日程について 4 第56回北海道吹奏楽コンクールについて 5 その他
9月26日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業報告(8・9月)及び社会教育事業計画(10～11月)について 2 第48回上富良野町総合文化祭事業計画について 3 教育委員学校訪問の日程について 4 平成23年札幌上富良野会総会の開催について 5 その他
10月27日(木)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業等報告(10月)及び社会教育事業計画(10～1月)について 2 第48回上富良野町総合文化祭について 3 上富良野町指定文化財「東中尋常高等小学校御真影泰置所」表示板の一部改正について 4 平成23年度上川管内教育委員会連合会第2回委員研修会について 5 その他
11月24日(木)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業報告(11月)及び社会教育事業計画(11月～3月)について 2 上富良野町パークゴルフ場の指定管理者の指定について 3 年賀広告の協賛依頼について 4 その他

12月28日(水)	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成24年度予算(教育費)について 2 社会教育事業報告(11・12月)及び社会教育事業計画(1~3月)について 3 平成24年度全国学力・学習状況調査における抽出調査への協力及び希望利用について 4 平成24年新年交礼会について 5 平成24年「上富良野町成人式」の開催について 6 上川南部教育委員研修会の日程について 7 その他
1月23日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業等報告(1月)及び社会教育事業計画(2~3月)について 2 上富良野町子ども読書推進計画(案)について 3 平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査結果の分析まとめ 4 平成23年度上富良野町教育推進会議等の実施について 5 上川南部教育委員研修会の日程について 6 平成23年度上富良野町児童生徒表彰に係る推薦書の提出について 7 その他
2月21日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1 町内各小中学校等卒業式の日程について 2 社会教育事業等報告(1・2月)及び社会教育事業計画(2~3月)について 3 その他
3月28日(水)	<ol style="list-style-type: none"> 1 町内各小中学校等入学式の日程について 2 町内各小中学校(平成24年3月~9月)の学力向上プランについて 3 社会教育事業報告(2・3月)及び社会教育事業年間計画(案)について 4 その他

(3) 学校訪問、各種行事、研修会等への参加

月	行 事 等	開催場所	備考
4	平成 23 年度上富良野町教職員着任式 町内小中学校等入学式 道立上富良野高等学校教育振興会 上川管内教育委員会連合会総会・委員研修会 いしずえ大学入学式	社教センター 各小中学校等 上高校 旭川市 かみん	
5	新任教職員町内公共施設見学会 上小運動会、上中体育大会 青少年の健全育成を進める会総会	町 内 各学校 社協センター	
6	東中小・中、上西小運動会 指導監学校経営訪問（上中、上小、上西小、東中 小、江幌小） 定例町議会	各学校 各学校（東中中 を除く） 役 場	
7	江幌小運動会 第 48 回北海道教育委員研修会 戦没者追悼式	江幌小 札幌市 かみん	
8	平成 23 年度なかよしサミット	社教センター	
9	定例町議会 北海道吹奏楽コンクール（上小・上中） 学校祭（上中・東中中） 学校祭（上小）	役 場 札幌市 各学校 各学校	
10	教育委員学校訪問{西小、江幌小（学校給食検食）、 東中小、東中中、上小、上中} 全道町村教育委員会教育長部会研修会	各学校 札幌市	
11	札幌上富良野会総会 町表彰式 町総合文化祭 上川管内教育委員会連合会委員研修会 教育委員研修旅行 上富良野高等学校振興会役員会 西小学校チャレンジ博覧会 学芸会（上西小・江幌小・東中小）	札幌市 社教センター 社教センター 東神楽町 京都市 上 高 上西小 各学校	
12	定例町議会	役 場	
1	町民新年交礼会 消防出初式 成人式	消防大会議室 役 場 かみん	
2	上川南部教育委員会委員研修会 町教育推進会議 町教育賞・教育奨励賞表彰式（上富良野高校）	富良野市図書館 社教センター 上 高	
3	道立上富良野高等学校卒業式 町教育賞・教育奨励賞表彰式（各小中学校）	上 高 各学校	

町教育賞・教育奨励賞表彰式（高田幼稚園）	高田幼稚園	
いしずえ大学卒業式	公民館	
定例町議会	役 場	
町内小中学校卒業式	各学校	
高田幼稚園卒園式	高田幼稚園	
上富良野町教職員離任式	社教センター	

(4) 教育委員会議等の評価

(1) 教育委員会議について

規則規程の改正、各種委員の承認等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くあった。また、各委員への報告や協議、情報提供等により、円滑な議事が進行された。

議案として取り扱う中でも、内容の軽重を吟味・精査し、慎重な審議が必要な案件についてはしっかりと時間をかけて議論することができるよう、説明や資料の提示や方法等も含めて、メリハリある議事運営に努めた。

(2) 各種行事、会議、研修会等への参加

① 学校訪問（教育委員）については、訪問する学校の日程を調整の上訪問し、それぞれの学校の取り組み等について学校長・教頭から説明を受けた後、児童生徒の学習の様子を見学するとともに、子ども達の学校での生活状況や学校の運動方針、施設、教育環境等、様々な視点で、各学校の特徴や抱えている課題等を把握することに努めた。また、東中小では、学校給食を児童、教諭と共に食べ、懇親を深めた。

② 学校経営訪問（指導監）については、町内の5小中学校（東中中を除く）と日程を調整の上訪問し、それぞれの学校の取り組み等について、学校長・教頭から資料等に基づき説明を受けた後、指導監から学校経営に係る助言をいただき、今後の学校運営に役立てた。

③ 小中学校の入学式、卒業式、児童生徒等表彰式については各委員が教育委員会を代表して出席し、運動会、体育祭、学芸会、学校祭等の学校行事は、各委員が教育委員会として出席した。

④ 町の表彰式や教育委員会が主管する教職員の離着任式、成人式等に出席し、全道、上川管内、富良野沿線の委員研修に積極的に参加して、教育委員自身の自己研鑽に努めた。

⑤ 教育委員会議の審議内容については、町役場の情報コーナーにおいて公開し、町のホームページにも公開している。

今後も、教育委員会や学校等で取り組んでいる状況について町民の理解と協力を一層得るために、引き続き町の広報やホームページの活用を進める必要がある。

「教育行政執行方針」に基づく点検・評価

(1) 学校教育班関係

	評価項目	細項目
1	学校教育	① 学校教育アドバイザー配置 ② 全国学力・学習状況調査 ③ 上富良野町学力向上プラン ④ 新学習指導要領への対応準備 ⑤ 学校評価の充実
2	児童生徒の指導	① 心の相談員配置
3	特別支援教育	① 特別支援教育指導助手配置 ② 特別支援教育連絡協議会 ③ 就学指導委員会
4	学校危機管理	① 登下校時における地域の見守り
5	へき地・複式教育	① へき地・複式教育
6	教育環境整備	① 教育用コンピューター整備 ② 上富良野小学校基本設計 ③ 上富良野西小学校体育館 耐震改修実施設計
7	国際理解教育	① 英語指導助手の配置
8	道立上富良野高校への支援	① 上富良野高等学校教育振興会補助
9	姉妹校交流事業	① 姉妹校交流事業
10	幼稚園教育	① 私立幼稚園就園奨励補助 ② 私立幼稚園特別活動振興補助

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	① 学校教育アドバイザー配置				
目的	<p>教育を取り巻く状況はめまぐるしく改革が進められ、教育基本法や教育三法の改正が行われ、学校教育の根本的な部分からの見直しが進められようとしている中で、子ども達を取り巻く状況も大きく変化しており、学ぶ意欲や学力の低下、学習習慣の未成熟、規範意識の低下や倫理観の希薄化、社会的自立の遅れやいじめ問題など大きな課題が生じている。</p> <p>こうした状況の中で、行政職員のみでの教育委員会事務局体制下では、今般の教育改革に十分な対応を図ることが困難であり、専門的な知識と経験を持つ教育職員を教育委員会事務局に配置し、学校に対する指導助言、学校・家庭・地域の連携強化を図り、子ども達の学習環境の整備を図ることを目的とする。</p>			推進目標	学校・家庭・地域の連携強化を図る		
概要	<p>教育委員会と町内各小中学校の連携強化を図り、各学校長と協力し、学校管理運営の充実を図る。「いじめ」「不登校」「問題行動」「虐待」等に対する早期発見、早期対応、早期解決のため、各学校を訪問し、教職員に対し適切な指導と助言等を行う。</p> <p>確かな学力の向上の取組みとして、自主性や自立性の向上にもつながる「家庭学習の習慣化」に向け、学習の仕方や進め方についての保護者への資料作成を行う。また、長期休業中(夏休み・冬休み)の学習支援として、学び交流する学習の場を設けるよう検討を進める。</p>				事業年度	開始	終了
					H20年度	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				2,071	2,013	58	
検 証 内 容				評 価			
必要性	昨今に教育環境の変化に対応し、現場(学校)での経験を基に、教委及び学校の立場を十分理解した対応が必要となっている。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	平成20年度に初めて配置し、学校と教委事務局との距離感をなくし、これまで以上の連携が図れる。			B	A	A	
費用対効果	本来、各教委事務局に必要な「指導主事」的な役割も担っており、現在の費用以上の効果が得られている。			(理由・説明)			
方向性	学ぶ意欲や学力の低下、学習習慣の未成熟、規範意識の低下や倫理観の希薄化、社会的自立の遅れやいじめ問題など課題が山積していることから、継続的な配置が必要						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	様々な課題に対応するため、学校教育アドバイザーの活用範囲の拡大を図り、学校教育振興の体制づくりを更に推進していく必要がある。						
	改 善 策						
	学校教育アドバイザーを活用し、校長会・教頭会等を通じて、学校に対する指導助言を行うと共に、学校・家庭・地域との連携をより一層強化していく						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	② 全国学力・学習状況調査	推進目標	児童生徒の生活習慣・学習習慣の見直し、改善と学力向上を図る		
目的	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況から成果と課題を把握・分析・検証することにより、その学習改善を図る。						
概要	実施日	平成23年9月27日(火) 上富良野西小学校・江幌小学校・上富良野中学校・東中中学校 平成23年9月29日(木) 上富良野小学校		事業年度	開始	終了	
	調査対象	小学6年生、中学3年生			平成19年度	継続	
	調査教科	小学6年生 国語・算数 中学3年生 国語・数学		事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
	希望利用校	小学校3校、中学校2校			無	無	
検証内容				評価			
必要性	学習や生活状況を把握・分析し、改善を図るためにも学力・学習状況調査が必要。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	道内の小学6年生と中学3年生が受験することにより、正確な調査結果が得られ、道内の状況や過去の全国平均を比較し、本町の児童生徒の学習状況が把握できる。			B	A	B	
費用対効果	国費事業で効果的に実施されている。			(理由・説明) 参加した小中学校においては、改善プランを策定し、具体的な取組から成果が表れている。			
方向性	国が配布する全国学力・学習状況等の問題を活用した調査に参加し、その結果を詳細に把握・分析し成果と課題を検証し、改善を図る。						
今後の取組	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校での基本的な生活習慣や道徳心が確立されており、基礎的な学力が身に付いていることが認められるが、条件に応じた文章での表現力や複雑な計算・幾つかの情報から答えを導き出す数学的な考え方に課題があるので、発展的な学習への指導の強化が必要である。 ・家庭学習やテレビ・インターネットなど家庭生活での時間の使い方に課題が見られ、家庭学習の習慣化を図る必要がある。 						
	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かりやすい・楽しい授業」を基本として、基礎・基本の一層の定着や朝読書の習慣化と読解力の育成をはじめ、指導方法工夫改善加配(TT)を配置し、効果的な指導のあり方、宿題の効果的な出し方、放課後の補習、体験活動、課題解決的な学習などを積極的に取り入れ、応用力・活用力の向上を図る指導を推進する。 ・基本的な学習方法を示した「進んで学ぶ上富っ子 家庭学習のすすめ」や各学校の学習の手引きを活用し、家庭学習の習慣化を図る。 						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	③ 上富良野町学力向上プラン	推進目標	上富良野町教育委員会としての方策をもとに、各学校は、成果と課題、子どもの実態を再確認し、学力向上の具体策を立て実践化を図る。			
目的	平成22年度の学力学習状況調査から、全国との学力や生活習慣等の課題を把握し、上富っ子の学力向上をめざした取組を構築する。							
概要	上富良野町としての学力向上プランの作成と実践 ・町として成果と課題を示し、学力向上への方策を各校に示す。 ・各校は、成果と課題を明確にして具体的な方策を立て、教育委員会に報告する。 ・各校は、上記の具体的な方策を実践し、年度途中にその成果と課題を報告する。			事業年度	開始	終了		
					平成21年度	継続		
	検 証 内 容			事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
					無	無		
				評 価				
必要性	・もてる能力を十分発揮しきれていない上富っ子に対する方策は必要不可欠のものである。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	・方策が具体的なものになり、実践する内容が明確にすることができた。また、成果と課題を年度途中に見直すことで、具体的な実践策を講じることができた。			B	B	B		
費用対効果				(理由・説明) ・取組の成果を確かめるための調査検証に時間を要する。				
方向性	・方策にある「家庭学習の充実」などの定着を推進する。							
今後の取組	今 後 の 課 題							
	・各校が学力向上を図るため、校内組織を生かした実践が課題となる。 ・わかりやすく活用できる「進んで学ぶ上富っ子 学習のすすめ」を作成し、学校と家庭が連携を強化し、家庭の理解と協力を求める。							
	改 善 策							
・「進んで学ぶ上富っ子 家庭学習のすすめ」を改定し、学校と連携を図りながら各家庭に配布し、家庭学習の習慣化を図る。 ・計画→実践→評価→改善のサイクルを通して、課題への解決に向けた方策の改善や新たな方策の構築を図る。								

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	④ 新学習指導要領への対応準備	推進目標	上富良野町教育委員会としての方策をもとに、各学校は各自の課題・子どもの実態を再確認し、学力向上の具体策を立て実践化を図る。			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の「外国語活動」完全実施後の授業の検証及び改善方策の検討を行うことを目的とする。 ・中学校の指導要領改訂に伴う理科教育充実のための実験備品等の整備。 				事業年度	開始 平成21年度	終了 継続	
概要	校長会より委員長、教頭会より事務局長、小4校から推進委員に教諭各1名、教委3名で構成。(外国語活動推進委員会) ・授業の進め方についての研究と授業の公開、授業推進に必要な教材教具の活用実践 ・評価の仕方の研修 平成24年度から本実施される中学校理科の授業時数増に伴う観察・実験などの学習活動の拡充のため、国庫補助金を活用して備品等の整備を行う。			事業費 (単位：千円)	予算額 1,316	決算額 1,313	差引 3	
				検 証 内 容				評 価
必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな教科の取組に対し、研修・検証を行うことは不可欠なものである。 ・新単元を学習するための実験備品等は、必要不可欠なものである。 			達成度	効果度	総合評価		
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・完全実施の前に準備として、研修を行ったことで、円滑に授業を行うことができた。 ・備品等の整備により観察・実験などの学習活動が大幅に拡充される。 			A	B	A		
費用対効果	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中で必要な備品等の整備ができた。 			(理由・説明) ・完全実施に向けて準備を行ってきたことで、円滑な移行ができ、授業効果も上がっている。				
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業研修などを通して検証と改善を行っていく。 							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> ・完全実施後の検証と改善(授業のすすめ方や教材教具の購入など) 							
	改 善 策							
	<ul style="list-style-type: none"> ・検証に基づく有効な教材教具の購入に向けての予算化。 							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	⑤ 学校評価の充実		学校の教育活動やその他の学校運営について評価を行い、その結果に基づき学校及び設置者等が改善を図るとともに、評価結果を広く保護者等に公表する。そのことで、共通理解と相互の連携・協力を促進するために学校評価の組織化を推進する。			
目的	学校評価の充実は、学校課題を明らかにし改善の方策の基盤となるものである。			推進目標				
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に学校関係者評価委員会を設置し、地域の視点・意見を反映した評価とする。 ・生徒・保護者アンケートの結果や学校評価の結果を家庭・地域に公表し、相互の連携協力を促進する。 ・各学校の校長は、年度末に学校評価報告書を作成し教育長に報告する。 			事業年度	開始	終了		
					平成20年度	継続		
概要				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
					無	無		
検 証 内 容					評 価			
必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の児童生徒の実態と、課題解決への努力の様子を把握し、今後の指導・助言・支援に活用する。 			達成度	効果度	総合評価		
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々への学校に対する関心、理解・協力を得るための手立てとなる。 ・学校の現状と課題が明確になり、その解決への具体的計画と実践に向けての重要な資料となる。 			A	B	A		
費用対効果				(理由・説明) ・学校評価の実施については、各学校とも文部科学省の方針を踏まえながら確実に実施されている。				
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・より効果的な学校評価の進め方とさらなる工夫改善。 ・課題解決への適切な方策を構築するため、さらなる研究の推進。 							
今後の取組	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価から明らかになった成果と課題から計画 (plan)、実行 (do)、評価 (check)、改善 (act) のプロセスを通して学校改善を図る。 							
	改 善 策							
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の課題解決に向けた手立ての構築を行い、学校課題を明らかにし、改善方策を立てる。 ・教育委員会として学校への指導・助言・支援のあり方を工夫し、学校経営の適正化に努める。 								

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 _____ 学校教育班 _____

評価項目	2 児童生徒の指導	細項目	① 心の相談員配置				
目的	地域の人材を活用し、生徒の悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また学校と保護者・地域のパイプ役として、不登校・問題行動等の未然防止や早期発見・早期対応に当たる。			推進目標	いじめ・不登校などの未然防止や早期対応		
概要	相談員を上富良野中学校に配置（週3日(40週)、1日4時間の相談活動） ・生徒の話し相手・悩み相談 ・家庭・地域と学校の連携支援 ・その他の学校の教育相談活動の支援 ・H23年度相談件数：263件			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	588	511	77
検 証 内 容				評 価			
必要性	生徒のいじめ・不登校などの未然防止や早期対応するために必要			達成度	効果度	総合評価	
有効性	学校に相談できない問題を抱えている生徒や保護者が相談員に相談できるようになり、教師も生徒指導の問題を相談できるなどの状況の改善が図られてきている。			A	A	A	
費用対効果	少ない予算で効率的に事業の取り組みを行っている。			(理由・説明) 学校に相談できない問題を抱えている生徒や保護者が相談員に相談できるようになり、教師も生徒指導の問題を相談できるなどの状況の改善が図られてきている。			
方向性	生徒・保護者・教師が相談しやすい体制を構築することにより、不登校・いじめといった生徒が抱えている課題について早期発見・早期対応を図る。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	生徒が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、早期発見・早期対応の充実強化を図るよう実施しており、目的をクリアしているが、児童生徒の「心の問題」は、学力や友達関係のみならず、家庭環境、養育歴など複雑化と多様化の様相を呈し、問題を解決するためには、臨床心理に関する知識・経験などのある有資格者における対応が必要となってきた。						
	改 善 策						
状況を踏まえながら、心の相談員の勤務日数等についての考察を行いつつ、臨床心理に関する知識・経験など専門性のあるスクールカウンセラー（臨床心理士）の配置についても検討していく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	3 特別支援教育	細項目	① 特別支援教育指導助手配置		障がいのある児童生徒（LD等の発達障害を含む）一人ひとりのニーズに応じた教育の推進			
目的	特別支援教育対象児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育の推進のため、日常生活や学習支援、安全確保など学習活動上のサポートを行う。			推進目標				
概要	特別支援教育指導助手の業務内容 ①基本的な生活習慣確立のための日常生活支援 ②発達障害の児童生徒への学習支援 ③学習活動や移動等に関わる支援 ④児童生徒の健康・安全確保 ⑤学校行事における支援 ⑥周囲の児童生徒の障がい理解の促進 ⑦保護者との連携 ⑧その他 以上の8項目があり、学校の支持に従い、障がいのある児童生徒（LD等の発達障害を含む）並びに通常学級に在籍している学習困難等を抱える児童生徒を支援する。			事業年度	開始	終了		
						継続		
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
			5,456	5,416	40			
検証内容				評価				
必要性	発達障害のある児童生徒をサポートする。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	特別支援教育指導助手を配置することにより、発達障害を含む障がいのある児童生徒を適切に支援することができる。			A	A	A		
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 発達障がいを含む障がいのある児童生徒を適切に支援することができる。				
方向性	障がいのある児童生徒の個々に応じた教育の充実を図るため、特別支援教育指導助手の配置を継続する。							
今後の取組み	今後の課題							
	23年度において特別支援教育指導助手を上富良野中学校にも配置(西小・上小・上中に配置)							
	改善策							
	特になし							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	3 特別支援教育	細項目	② 特別支援教育連絡協議会		心身に障がいのある幼児及び児童生徒、学習障がい(LD)注意欠陥多動性障がい(ADHD)及び高機能自閉症等を含めた障がい等のある幼児及び児童生徒への支援のため必要な活動を行う。			
目的	心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図り、学習障がい(LD)注意欠陥多動性障がい(ADHD)及び高機能自閉症等を含めた障がい等のある幼児及び児童生徒への支援のため、関係者の連携や研修の機会を持ち、適切かつ効果的・効率的な指導を推進する。			推進目標				
概要	<ul style="list-style-type: none"> LD等を含む障がいのある児童生徒に対する支援体制の整備を促進するために、就学指導の機能を有する、教育・福祉・保健等の関係者からなる特別支援教育連絡協議会を設置 特別支援教育連絡協議会の中に専門部会を設け、各学校への助言・支援を行うための巡回相談、就学に関する相談や研修会等の取り組みを進める。 			事業年度	開始	終了		
					平成17年度	継続		
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
				無	無			
検 証 内 容				評 価				
必要性	特別支援教育の充実を図るために、児童生徒等の障がいの重度・重複度、多様化や保護者のニーズに対応するため、関係機関との連携を図り、きめ細やかな指導や支援を行う必要がある。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	学校・関係機関との連携・協力し合う特別支援教育連絡協議会を設置し、その中に専門部会を設け、障がいに応じた適切な指導助言、保護者等への相談支援、学校への支援を行うため有効である。			B	A	A		
費用対効果	特に予算は、計上していないが効率的に運営されている			(理由・説明) 就学前の児童生徒の相談支援体制を整備し、児童生徒の教育的ニーズに応えた指導を行っている。				
方向性	地域や関係機関との連携による支援体制の整備促進に努め、児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援が行える体制整備を図る。							
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> 就学相談を含めた相談支援体制の充実 保健福祉課、保育所、幼稚園、小学校、中学校と一貫した連絡体制の充実 							
	改 善 策							
	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関の情報の共有化今まで以上に行い就学指導を含めた相談支援体制の充実を図る。 スクラムの活用により保健福祉課、保育所、幼稚園、小学校、中学校と一貫した連絡体制の充実 							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	3 特別支援教育	細項目	③ 就学指導委員会					
目的	発達障害を含む障がいのある児童生徒などの就学の適正を図ることを目的とする。 委員 24 名			推進目標	児童生徒などの就学の適正を図る			
概要	毎年1回、翌年度に入学及び進学する児童生徒の就学に関し、適正を図るため審議を行う。 新入学児童関係 (97人) 特別支援学校入学者数 0人 特別支援学級対象児童数 6人 ことばの教室通級対象児童数 6人 新入学生徒関係 (112人) 特別支援学級対象生徒数 3人 特別支援学校入学者数 0人 在校児童生徒についても審議を行う。			事業年度	開始	終了		
				事業費 (単位:千円)	80	68	12	
検 証 内 容				評 価				
必要性	発達障害を含む障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うためにも必要性は大きい。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	就学指導委員会の審議結果を基に児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行っており有効性は高い。			A	A	A		
費用対効果	限られた予算の中での効果は大きい。			(理由・説明) 就学前検査状況と在校生の状況を充分把握した上での審議結果に基づき児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行っている。				
方向性	今後も継続する必要がある。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> 就学相談を含めた相談支援体制の確立 一人一人の児童生徒のニーズに応じた個別の支援計画の策定 保健福祉課、保育所、幼稚園、小学校、中学校と一貫した連絡体制を図る必要がある。 							
	改 善 策							
<ul style="list-style-type: none"> 就学指導を含めた相談支援体制の充実を図り、各学校等の課題を共有し、課題解決ができるよう体制整備を行う。 各学校等が抱える課題等について、連絡協議会や関係機関が共有できる環境整備を確立する。 教育と福祉が中心となり、障がいの有無に関わらずお互いを尊重し、生涯に渡って上富良野で共に学び育ち、支え合う環境を創立する。 								

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する

評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	4 学校危機管理	細項目	① 登下校時における地域の見守り	推進目標	児童生徒の登下校での安全を図る。		
目的	地域住民会において組織された「地域見守り隊」等により、児童生徒の登下校時における交通安全の推進と不審者等からの犯罪防止を目的に活動している。						
概要	「地域見守り隊」等は現在、5住民会で組織されており、上小及び西小校区の通学路を中心に活動している。 また、東中小の校区においては、不審者等が出没する等の緊急時に児童の通学路の周辺住宅に避難できるシステムを構築している。			事業年度	開始	終了	
						継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				無	無		
検証内容				評価			
必要性	児童生徒の登下校での危機管理強化を推進するために必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	「地域見守り隊」等による、児童生徒の登下校や交通安全の推進が図られる。			B	A	A	
費用対効果	住民会経費の中で賄われている。			(理由・説明) 地域見守り隊の配置により児童生徒や教師の安全に対する意識の向上が図られた。			
方向性	今後も、各学校、PTAと連携を図る必要がある。						
今後の取組み	今後の課題						
	地域ボランティア活動として支援されているが、継続的に活動がされる様な体制作りのため、何等かの対応策が必要である。						
	改善策						
	児童生徒の登下校での危機管理強化を推進するために、地域住民会だけの活動とせず、PTA等にも活動を広げるために、生活安全推進協議会と連携し対応策の検討を進める。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	5 へき地・複式教育	細項目	① へき地・複式教育	推進目標	豊かな自然を生かす学習活動の推進			
目的	へき地学校・複式学級を有する学校の教育の充実に資するため、東中小学校、江幌小学校において、豊かな自然や小人数の特色を生かし、体験学習を主体とした学習を図る。							
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や自然に親しむ活動 ・勤労・体験学習、 ・学校種間の交流・集合学習 ・へき地・複式教育の研究、交流 			事業年度	開始	終了		
						継続		
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
				120	120	0		
検 証 内 容				評 価				
必要性	特色ある教育活動や心のふれあいを通じて、児童を育てるため必要性は高い。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	子ども一人一人の個性を伸ばさせ、豊かな人間性を培うことでへき地・複式教育の目的が図れる。			B	A	B		
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 小規模校の特性を生かした学習活動が実施されている。				
方向性	今後も、特色ある教育活動や心のふれあいを通じた学習機会を提供していく必要がある。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	へき地・複式教育の特性を生かした特色ある教育活動を更に推進する。							
	改 善 策							
	小規模・少人数の利点を生かし、地域に根ざした特色あるふるさと学習、体験学習、交流学習、集合学習のさらなる充実に資する。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	6 教育環境整備	細項目	① 教育用コンピューター整備	推進目標	学校教育に関する情報機器の整備と円滑な利用を促進する。			
目的	教育の情報化を通して教育の質の向上を図るため、学校教育に関連する情報機器の整備と円滑な利用を促進する。							
概要	年次計画により、各小中学校の教育用コンピューターの更新を図る。 平成23年度実施内容 対象校 東中小学校 更新内容 教育用コンピューター11台、電子黒板1台、デジタルカメラ5台 デジタル教科書(国語・算数) 購入他 ※ PC教室6台、普通教室、特学教室4台、図書室1台			事業年度	開始 平成19年度	終了 継続	更新計画	
				事業費 (単位:千円)	予算額 2,415	決算額 2,415	差引 0	
検証内容				評価				
必要性	学校における情報関連機器の整備は必要性が高い。 新学習指導要綱による電子黒板及びデジタル教科書を整備し活用を図る。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	児童生徒へ情報教育を実施するだけでなく、一般の授業の中での活用が広がることから情報関連機器の整備は、有効である。			B	A	A		
費用対効果	防衛庁調整交付金を活用しての更新であり全体的には高額であるが、町の持ち出しは比較的安価である。			(理由・説明) 計画的に更新されている。				
方向性	今後も計画的に更新していく。							
今後の取組み	今後の課題							
	・情報化社会への対応や、児童生徒の教育のため、教職員の児童生徒に対する情報教育の指導力向上を図っていく。							
	改善策							
・児童生徒における情報教育の充実のため、計画的に更新していく。								

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	6 教育環境整備	細項目	② 上富良野小学校基本設計				
目的	上富良野小学校校舎は、老朽化が著しく抜本的な改修が必要であり、耐震2次診断の結果、耐震基準を満たしていない棟が大部分を占めることから校舎の全面改築を実施するため基本設計を行う。			推進目標	施設の安全性を向上させるため、改築に向けて基本設計を実施する。		
概要	床面積 1F3,035㎡ 2F2,495㎡ 3F970㎡ 合計6,500㎡ 普通教室16、特別支援教室4(プレイルーム、便所)、多目的教室3、通級教室4(プレイルーム)、図書室、視聴覚室(コンピューター教室)、図工教室、家庭科教室、理科教室、音楽室、段床ホール、展望ホール、職員室、保健室、校長室、会議室(PTA室、児童会室)、相談室、放送室、職員更衣室、職員便所、公務補室、ゴミ庫、機械室、配膳室、児童便所4、多目的トイレ、教材庫5、物品庫5			事業年度	開始	終了	
					平成23年度	平成23年度	
				事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	差引
			18,722	15,750	2,972		
検 証 内 容				評 価			
必要性	施設の更新を図るため必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	施設の更新が図られ安全性が向上する。			A	A	A	
費用対効果	施設の更新のため有効と判断する。			(理由・説明) 教育環境整備の推進が図れる。			
方向性	基本設計を踏まえ整備計画を確立していく。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	特になし						
	改 善 策						
特になし							

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	6 教育環境整備	細項目	③ 上富良野西小学校体育館耐震改修実施設計					
目的	上富良野西小学校体育館は、耐震2次診断の結果、耐震基準を満たしていないことから耐震補強の実実施設計を実施する。			推進目標	施設の耐震性を向上させるため耐震改修実施設計を実施する。			
概要	耐震改修実施設計一式 ・上富良野西小学校体育館 【建設年度】S44年 【構造】鉄骨造 【床面積】710㎡ 【IS値】0.15~0.83			事業年度	開始	終了		
					平成23年度	平成23年度		
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
					7,980	7,560	420	
検 証 内 容				評 価				
必要性	施設の耐震性を図るため必要である。			達成度	効果度		総合評価	
有効性	施設の耐震性を図り児童の安全を確保する上でも有効。			A	A		A	
費用対効果	施設の耐震性を図るためにも有効と判断する。			(理由・説明) 教育環境整備の推進が図れる。				
方向性	実施設計を踏まえ整備計画を確立していく。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	特になし							
	改 善 策							
	特になし							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	7 国際理解教育	細項目	① 英語指導助手の配置				
目的	英語に慣れ親しみ、日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶため、町内の小中学校に英語指導助手を派遣し、英語力の向上を図る。			推進目標	児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養い、外国の文化や生活習慣を学び、国際理解教育を英語力の向上から深める。		
概要	姉妹都市であるカナダ国カムローズ市より英語指導助手を招き、町内の小中学校に派遣して英語教育、総合的な学習の時間（国際理解教育など）に活用する。 また、幼稚園や保育所にも派遣し、幼児期から英語に親しむ活動や町民を対象とした英語教室を開設（社会教育事業）し、町民全体が英語に親しめる環境を目指している。			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	3, 809	3, 788	21
検 証 内 容				評 価			
必要性	小学生段階から国際理解教育を充実することにより、次世代を担う子ども達に国際的な視野を持ったコミュニケーション能力を育成する必要がある。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	コミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地を育成するためには、英語指導助手を小中学校に派遣することは有効である。			B	A	A	
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 日本語の能力がない英語指導助手の小学校への派遣は、事前の教師との打合せや、授業においてコミュニケーションがうまくとれない場合がある。			
方向性	義務教育はもとより、生涯にわたる外国語学習の基礎を培うため継続して実施する。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	23年度から小学5・6年生に外国語活動が導入されたが、さらに活用をすすめ国際理解・外国語活動の充実をはからなければならない。中学生においても授業のみでの活用ではなく、コミュニケーション能力の育成等さまざまな活用が求められ、訪問時間が増加している。						
	改 善 策						
より効果的な運用をするため、訪問については各学校、施設と協議しながら計画的に活用し、有効な方法について検討していく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	8 道立上富良野高校への支援	細項目	① 上富良野高等学校教育振興会補助					
目的	北海道上富良野高等学校の将来的展望に基づき教育環境整備を促進し、特色ある地域に根ざした魅力ある学校づくりを進める。また、少子化による生徒数の減少が続く中、地元高校の存続・守るよう生徒獲得の助成策を講じて、町の活性化に寄与していく。				推進目標	上富良野高等学校の特色ある学校づくりの振興		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、生徒の学習等への支援 ・中・高校職員の交流活動への支援 ・特別活動、ボランティア活動への支援 ・生徒会活動、部活動、学校行事、教育環境整備、学校開放講座への支援 ・入学準備金の助成支援 ・特色ある学校づくり対策への支援 				事業年度	開始	終了	
					事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
			3,521	3,521	0			
検 証 内 容					評 価			
必要性	上富良野高等学校が存続するためにも必要である。				達成度	効果度	総合評価	
有効性	特色ある地域に根ざした学校づくりの振興に有効性が高い。				A	B	A	
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。				(理由・説明) 生徒の確保を目的に特色ある学校づくりに様々な支援を実施してきた。 平成24年度入学者は定員を10名下回った。			
方向性	地域やPTAとの連携による支援体制の強化に努め、学校ニーズに応じた支援が行う必要がある。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	平成24年度の入学は30名と昨年から3名増となったが、定員は10名欠員の状況にあり、今後の対応について、上富良野高等学校教育振興会が中心となり、各中学校・各関係機関とも協議・調整しながら、更に生徒の確保に努めなければならない。							
	改 善 策							
	特色ある学校づくりを振興するための支援策の強化を図り、定員の確保に努めていく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	9 姉妹校交流事業	細項目	① 姉妹校交流事業	推進目標	上富良野町立西小学校との姉妹校交流の推進を図る。		
目的	上富良野町立西小学校と三重県津市安東小学校の姉妹校交流を推進するため、交流会、交歓会、ホームステイ等の交流活動の場を通じて心豊かな子どもを育てる。						
概要	・三重県津市安東小学校へ訪問交流（3年に1回 前回20年度実施） 7/27～29 引率2名、児童10名 ・交流会、交歓会、ホームステイなど ・物的交流（思い出のファイル、メロン・ジャガイモなど）			事業年度	開始	終了	
					平成10年度	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					560	560	0
検 証 内 容				評 価			
必要性	両校の伝統や地域のよさを学び心豊かな子どもを育てる場として必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	先人の勇気と強い心を学び、交流を通じて友情を築きながら、心豊かな子どもたちを育てることができる。			B	A	B	
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 両校の子ども達の交流を通じて、お互いの地域文化を理解できていると考える。			
方向性	今後においても両校との連携を図り、効果的な交流を図る必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	両校の伝統や地域のよさを学ぶことにより、心豊かな子どもを育てることができるため、相手校との協議を進めながら、よりよい交流の方法等を検討していく必要がある。						
	改 善 策						
	より効果の高い交流の方法等を検討していく。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	10 幼稚園教育	細項目	① 私立幼稚園就園奨励補助				
目的	私立幼稚園へ通園する園児の保護者の経済的負担を軽減し、幼稚園教育の振興を図るため国の制度に基づき実施する。			推進目標	幼児教育の一層の普及充実を図る。		
概要	保護者負担の軽減を図るため、保護者の所得階層に応じて補助金を交付する。補助金の対象となる費用については、入園料と保育料のみ			事業年度	開始	終了	
						継続	
				事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	差引
			13,216	13,163		53	
検 証 内 容				評 価			
必要性	私立幼稚園に通う園児の保護者の経済負担を軽減するため必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	幼児期の教育の重要性が指摘されており、経済的にも有効である。			A	A	A	
費用対効果	国の補助事業の基準に沿って、限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 保護者の所得状況に応じて経済的負担が軽減されており、効率的な活用が図られた。			
方向性	今後においても、国の動向を踏まえ、私立幼稚園と連携を図りながら実施していく必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	国の制度改正では、保護者負担が軽減される傾向にあるため、補助金の額が増加している。平成23年度についても補助単価の見直しが行われ、全ての階層で補助単価が引き上げられている。幼年扶養控除が廃止されたことにより所得階層区分の判定に影響が生じることが予想される。						
	改 善 策						
	今後においても、国の動向を十分把握しながら適切な対応を図る。						

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する

評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	10 幼稚園教育	細項目	② 私立幼稚園特別活動振興補助	推進目標	幼児教育の一層の普及充実にを図る。		
目的	幼児教育を担っている私立幼稚園の預かり保育事業、教職員の研修事業等に対して補助金を交付し、より一層の普及充実にを図る。						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質の向上を図るための研修、研究に関する費用 ・魅力のある教育の場の確立を図るための教材作成に関する費用 ・共働き家庭のために実施する預かり保育に係る人件費 			事業年度	開始	終了	
						継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
	2, 500	2, 500	0				
検 証 内 容				評 価			
必要性	社会状況の多様化とともに、幼児教育の重要性・必要性が高まっている。特に預かり保育についてはその要望も増えている。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	共働き家庭のための預かり保育については、特に有効である。			B	A	A	
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 教職員の資質の向上を図るための研修、教材、及び預かり保育の人件費等で幼児教育の推進が図られた。			
方向性	今後においても、私立幼稚園と連携を図りながら実施していく必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	特別な支援、配慮を必要とする園児の入園が増えており、幼稚園ではそのための環境整備や教職員の配置を独自に実施している。						
	改 善 策						
特別な支援が必要な児童が適切な保育を受けられる場を広く確保するため、どのような支援がよりよい方法であるか、実施に向けた検討を進める。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

(2) 社会教育班関係

	評 価 項 目	細 項 目
1	家庭教育	① 家庭教育力の向上対策
2	青少年教育	① 子ども会育成協議会 ② スポーツ少年団育成事業 ③ 青少年団体協議会 ④ 学校支援地域本部事業
3	放課後プラン事業	① 放課後スクール事業 ② 放課後クラブ事業
4	成人・高齢者教育	① いしずえ大学 ② 女性学級（女性教育）
5	文化芸術の振興	① 総合文化祭 ② 上富良野町文化連盟活動事業補助 ③ 自主企画芸術鑑賞補助
6	図書館運営	① 図書館管理運営 ② ブックスタート ③ 読み聞かせ会
7	文化財・歴史の保存活用	① 指定文化財保存 ② 郷土館収蔵物データ化事業
8	スポーツ振興	① スポーツ団体（体協）補助 ② スポーツ教室の開催 ③ スポーツ普及活動
9	社会教育施設の管理等	① 各公民館分館管理運営 ② 公民館管理運営 ③ 社会教育総合センター管理運営 ④ B&Gプール管理運営 ⑤ パークゴルフ場管理運営 ⑥ 野球場改修(内野・スコアボード)

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	1 家庭教育	細項目	① 家庭教育力の向上対策			
目的	家庭は、子ども達の健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点です。子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化している中、地域全体で子どもや家庭を見守り育てるため、教育分野や福祉分野が連携し、子育て支援を行う。			推進目標	家庭教育力の向上を図る	
概要	(教育分野) ・親の子育て支援に関する学習機会の提供、情報提供を行う。 (1)道民家庭の日の普及促進 (2)家庭教育学級の開設(すこやか子育てセミナーなど) ※講師謝金支出 (3)早ね早おき朝ごはんの取り組み、啓発活動 (4)子育てサークルの活動サポート ※研修会講師への謝金 (5)ママパパ情報タウンちゃんWEB版の作成、更新 (6)広報誌(隔月)家庭教育シリーズの掲載 ※校長会			事業年度	開始	終了
				事業費 (単位:千円)	10	10
検 証 内 容				評 価		
必要性	親に対する多様な学習の機会及び情報の提供を行い、家庭教育の自主性を尊重しつつ、自らの役割と責任を果たす親の育成に努める必要がある。			達成度	効果度	総合評価
有効性	家庭のあり方など、親同士の交流、情報交換、地域コミュニケーションのツールとして有効である。			B	B	B
費用対効果	講演会の講師にかかる経費を計上。			(理由・説明) 家庭教育を支援する環境は重要であり、今後も必要な支援である。		
方向性	子育て支援班など関係機関と連携しながら、家庭教育の支援を行う。					
今後の取組み	今 後 の 課 題					
	子育て支援班と連携し、役割分担する必要がある。 各保護者会、各学校PTAを通じて、家庭教育にかかる情報提供が必要である。					
	改 善 策					
家庭教育にかかる情報提供について、講演会・広報誌等を通じて周知するとともに、子育て支援班と連携し事業を推進する。						

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	2 青少年教育	細項目	① 子ども会育成協議会			
目的	地域社会での集団行動を通じて、子ども達の協調性・創造性を養い体験から学び、豊かな心を育てることを目的に行われる子ども会育成協議会の活動に対して支援を行う。			推進目標	子どもの健全育成を図る	
概要	子ども達がたくましく成長する様々な交流、体験活動を行う。 事業内容 田植え・稲刈り体験、子ども行灯行列、ジュニアリーダー研修会、野外体験(キャンプ)、子ども会祭り、餅つき交流会など 登録団体数・会員数 29団体 546人 H23年度 28団体 576人			事業年度	開始 昭和42年	終了 継続
				事業費 (単位:千円)	予算額 300	決算額 300
検 証 内 容			評 価			
必要性	単位子ども会の活性化を目指し、子ども達の発達を促すためにも必要である			達成度	効果度	総合評価
有効性	様々な行事を通しての子ども同士の交流や、保護者間での交流も活性化している。			A	A	A
費用対効果	限られた予算の中で活発な活動を展開しており効果は大。			(理由・説明) 子ども同士の交流や、保護者間での交流も活性化している。		
方向性	子ども会の活性化に向けて育成者の研修強化を図る。					
今後の取組み	今 後 の 課 題					
	少子化が進む中で、子ども会の活性化に向けた支援は重要であり、育成者の研修強化も必要であるが、今後に向けては単位子ども会の統合等についても検討する必要がある。また、各自治会組織の関わり方についても検討していく必要がある。					
	改 善 策					
各自治会組織に関わっていただきながら、子ども会の活性化に向けて育成者の研修強化を行うことにより地域の教育力の向上を図る。						

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する

評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	2 青少年教育	細項目	② スポーツ少年団育成事業	推進目標	スポーツ振興の発展を図りながら、青少年の身体と健康づくりを目指す		
目的	町内スポーツ少年団の組織運営や研修等を円滑に推進し、一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを与え、スポーツを通じて青少年の心と身体を育てる組織を地域社会の育み、スポーツ振興の発展を図ることを目的とする。						
概要	スポーツ少年団本部に対し補助を行い、町内スポーツ少年団の育成指導を図り、その活動を活発化する H23年度 11団体 団員数 341人			事業年度	開始	終了	
					昭和50年度	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					1,100	1,100	0
検 証 内 容				評 価			
必要性	スポーツを通じて青少年の心と身体を育てることを目指しおり、スポーツ振興の発展推進のため必要性は大である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	スポーツ少年団の育成指導を図り、その活動を活発化しており有効である。			B	B	B	
費用対効果	限られた予算の中で、各団体の活動に補助し、その活動は活発化しており費用対効果は大である。			(理由・説明) 青少年の心と身体を育てることを目指し、スポーツ振興の発展推進のため、スポーツ少年団の育成指導を図り、その活動を活発化している			
方向性	今後も本事業を継続し、青少年スポーツ活動を助長する。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	スポーツ指導者の育成と確保が課題となっている。						
	改 善 策						
	指導者育成研修会等を地元で開催できるような検討を行うまた、町単独での研修会開催の検討を進める。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	2 青少年教育	細項目	③ 青少年団体協議会	推進目標	ボランティア活動や地域活動にかかわることで、次世代の青年を養成する。		
目的	地域の活性化、新たな生活文化の創造と生涯学習の意識高揚に基づき、地域青年リーダーの養成を図ることを目的とする。						
概要	1. 児童館活動支援 2. 子ども会活動支援 3. ゴミ拾い・雪下ろしボランティア 4. クリスマスプレゼント配布 5. 全道青年大会参加 他	H23年度 会員数 25名	事業年度	開始	終了	事業費 (単位：千円)	差引
				昭和37年	継続		
				予算額	決算額	50	50
							0
検 証 内 容				評 価			
必要性	青年が集い親睦交流やボランティア活動を通じて、町づくり・地域づくりを担う青年リーダーを養成する必要がある。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	青少年活動支援及びボランティア活動等に積極的に参加され効果が得られている。			B	B	B	
費用対効果	会費と補助金で運営。			(理由・説明) 地域の活性化、新たな生活文化の創造と生涯学習の意識高揚を図っている。			
方向性	教育振興基本計画（第7次社会教育中期計画）に基づき、今後も活動の継続を期待している。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	会員数25名で登録者数は多くない。趣味・スポーツ等の活動が多様化しており、特に集団活動への参加は低迷している。平成24年度に発足50周年を迎えるため、実行委員会を組織し記念事業を計画。						
	改 善 策						
	広報誌等により活動内容の紹介等を行い活動状況を知ってもらうことにより新規会員の獲得を図る。平成24年度に50周年にかかる事業計画について協議する。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	2 青少年教育	細項目	④ 学校支援地域本部事業				
目的	学校、家庭、地域の連携協力のもと地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的とする。 「みんなで支える学校 みんなで育てる子ども」			推進目標	学校、家庭、地域住民が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携、協力を努める。		
概要	それぞれの学校の状況に応じて地域ぐるみで学校の教育活動の支援をボランティアが行う。 学校では教育活動のさらなる充実が図られ、地域は町民自らの学習成果を生かす場が広がり、地域の教育力が向上され、大人が子どもと向き合う時間が増える。 ※実行委員会を組織し平成22年度まで道委託業務として実施。平成23年度から補助事業に移行			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
検 証 内 容				評 価			
必要性	これからの教育は学校だけが役割と責任を負うのではなく、これまで以上に学校、地域、家庭の連携協力が必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	この活動を通じて、地域の連帯感が形成され、地域の教育力の向上や地域の活性化につながると考える。			B	A	B	
費用対効果	北海道からの委託補助事業として実施しているが、対象経費にボランティア員の活動費、謝金等は対象外である。 事業全体の広報啓発費、保険料が主な補助経費である。指導者謝金等は対象外			(理由・説明) ボランティア員74名が登録され、少しずつ事業が浸透してきている。 需要と供給のバランスも重視しながら、より良い体制の整備が望まれる。			
方向性	今後も学校、地域、家庭が連携した取り組みは必要である。						
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	これまでのPTA活動や学社融合事業、図書館読み聞かせ事業など、地域が学校と連携し関わって実施してきた取り組みとの意義・目的の明確化が必要。						
	改 善 策						
将来的な展望で、地域と学校との係わりの体制整備を図り、必要経費など予算も統括的に検討をしていく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	3 放課後プラン事業	細項目	① 放課後スクール事業	推進目標	学校施設を利用し、子どもの安全な居場所づくりを確保する。			
目的	放課後における子どもの安全安心な居場所づくりの確保と子どもの健全育成と、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを目的とする。							
概要	各小学校を活動拠点とし、地域の参画を得ながらスポーツや文化活動、交流活動を行う。(放課後クラブ事業と同時進行) 対象 小1～小6年 上小・西小 月～金(放課後から午後4時) 江幌小・東中小 週1回 みんなで遊ぼう教室を開催 登録人数 152人(H22年度178人) 利用人数 延べ6,713人(H22年度8,844人) 開設日数 延べ477日(H22年度437日) ※地域住民によるボランティア支援 延べ172名(H22年度131名(クラブ含め))			事業年度	開始	終了		
					平成19年度	継続		
				事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	差引	
					11,799 (クラブ含め)	11,644 (クラブ含め)	155	
検 証 内 容				評 価				
必要性	放課後の子どもの安全な居場所づくりを行い、地域の大人達が関わることで子ども達の健全な育成を図る上からも必要性は大きい。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	放課後の子どもの安全な居場所づくりを行い、地域の大人達が関わることで子ども達の健全な育成が図られており、有効性は大きい。			A	A	A		
費用対効果	国費、道費の補助があり、費用対効果は大。			(理由・説明) 地域の大人達が関わることで子ども達の健全な育成が図られている				
方向性	今後も継続。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校施設の空きスペースを利用しながら運営しているが、今後においては登録者、利用者の増加が予測されている中で空きスペースの確保が大きな課題である。また、特別支援対象児童(4人)の受入れ等や指導員体制のあり方等について検討していく必要がある。 国、道費の補助限度額が設定され、今後運営にかかる経費等について検討していく必要がある。 							
	改 善 策							
	<ul style="list-style-type: none"> 保健福祉所管との連携による特別支援対象児童の受け入れ検討 学校支援ボランティア員との連携・協力体制の整備 利用料金(受益者負担)のあり方を検討する。(受益者負担の定期的な見直し) 上富良野小学校改築時に実施スペースの確保を図る 							

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する

評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	3 放課後プラン事業	細項目	② 放課後クラブ事業	推進目標	学校施設を利用し、子どもの安全安心な居場所づくりを確保し、留守家庭等の子育て支援を行う。		
目的	放課後における子どもの安全安心な居場所づくりの確保と留守家庭等の子育て支援を目的とし、保護者の就業を支援して子どもの健全育成を目的とする。						
概要	各小学校を活動拠点とし、地域の大人たちが指導員となりスポーツや各種遊びを行いながら、子ども達を見守る。(放課後スクール事業と同時進行) 対象 小1～小3年の留守家庭児童 上小・西小 月～土(放課後から午後6時) 江幌小・東中小(長期休業期間) 登録人数 94人(H22年度97人) 利用人数 延べ10,372人(H22年度14,874人) 開設日数 延べ583日(H22年度582日) ※地域住民によるボランティア支援 延べ172名(H22年度延べ131名(スクール含め))			事業年度	開始 平成19年度	終了 継続	
				事業費 (単位:千円)	予算額 11,799 (スクール含め)	決算額 11,644 (スクール含め)	差引 155
検証内容				評価			
必要性	放課後における留守家庭児童の安全な居場所づくりと子育て支援を行い、地域の大人達が関わることで子ども達の健全な育成を図る上からも必要性は大きい。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	放課後における留守家庭児童の安全な居場所づくりと子育て支援を行い、地域の大人達が関わることで子ども達の健全な育成が図られており、有効性は大きい。			A	A	A	
費用対効果	国費、道費の補助があり、費用対効果は大。			(理由・説明) 放課後における留守家庭児童の安全な居場所づくりと子育て支援を行い、地域の大人達が関わることで子ども達の健全な育成が図られている			
方向性	今後も継続。						
今後の取組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校施設の空きスペースを利用しながら運営しているが、登録者、利用者の増加が予測されている中で空きスペースの確保が大きな課題である。また、特別支援対象児童(6人)の受け入れ等において、指導員体制や研修のあり方等について検討していく必要がある。 国、道費の補助が毎年改正される等、不明確であり対応を考慮していく必要がある。 						
	改善策						
<ul style="list-style-type: none"> 保健福祉所管との連携による特別支援対象児童の受入検討。 ※利用前にカンファレンスの実施、発達支援センター職員の定期的な訪問指導と情報交換を実施。 指導員の確保と養成 ・上富良野小学校改築時に実施スペースの確保を図る。 平成22年度に利用料金(受益者負担)について、総額費用の10%を目標に改正(年間6,000円→12,000円)。 							

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する

評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	4 成人高齢者教育	細項目	① いしづえ大学	推進目標	高齢者の活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育の推進を図る		
目的	高齢者が「若く老いよう」を合言葉に仲間が集い、共に学習やクラブ活動で文化・スポーツ・生活等について学び、正しい心と健やかな体をつくり、豊かな生活を築くことを目的とする。						
概要	139人の学生が在籍し、最長10年間にわたり月2回（毎月第2・4金曜日）の学習日がある。 学習計画に従い教養講座、軽スポーツ、運動会、クラブ活動、ボランティア活動、研修旅行などを行う。 ※役員会、年11回実施 ※学級懇談会、年2回実施			事業年度	開始 昭和47年度	終了 継続	
				事業費 (単位:千円)	予算額 647	決算額 608	差引 39
検証内容				評価			
必要性	今後において高齢者社会を迎えるにあたり、高齢者の活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育において重要な事業と位置付けている。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	高齢者の学習機会を得る場として、いしづえ大学が有効に機能している。また、人とのつながりの場でもあり、地域生活においても大変有効である。			A	A	A	
費用対効果	限られた予算の中で効果は大きい。			(理由・説明) 高齢者の活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育において重要な事業と位置付けている			
方向性	今後も事業を継続していく必要がある。						
今後の取組み	今後の課題						
	60歳から入学でき、10年間在籍できるようになっているが、長寿傾向の中で在籍期間の延長が望まれている。又、学習した成果を地域社会で生かすことで、地域との関わりを更に強く持つことが望まれる。平成24年度に開校四十周年を迎えるため、実行委員会等を組織し記念誌等事業を計画する。						
	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> 長寿傾向の中で在籍期間の延長が望まれていることから、入学年齢や在籍期間等についても検討していく必要がある。 地域において知識・経験を生かす人材活用の場の確保について検討をしていく必要がある。 平成24年度開校四十周年にかかる事業計画について、いしづえ大学自治会と協議する。 						

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	4 成人・高齢者教育	細項目	② 女性学級（女性教育）	推進目標	女性の学習の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育の推進を図る		
目的	女性が多様化・高度化する社会の課題に自らが学習カリキュラムを計画することにより、文化・スポーツ等について学び、女性の交流の輪を広げ豊かな生活を築くことを目的とする。						
概要	【実施要綱に基づく】 定員⇒50名 学習期間⇒4月開講式、5月～1月（9回）2月閉講式 学習内容⇒講話・軽スポーツ・趣味の学習・社会見学 等			事業年度	開始	終了	
					昭和46年	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				22	22	0	
検 証 内 容				評 価			
必要性	女性の学習活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育において重要な事業と位置付けている			達成度	効果度	総合評価	
有効性	女性の学習機会を得る場として、学級が有効に機能している。			A	A	A	
費用対効果	限られた予算の中で効果は大きい。			(理由・説明) 女性の学習活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育を図る。			
方向性	今後も事業を継続していく必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	50名の定員に対して47名受講。再募集したが定員に満たなかった。						
	改 善 策						
	募集にかかる周知期間を見直し、より多くの住民が受講できるよう周知する。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	5 文化芸術の振興	細項目	① 総合文化祭	推進目標	文化活動を行っている愛好者の発表機会と鑑賞機会を設け、町の文化発展に寄与する		
目的	文化の日（11月3日）を中心に、町内で文化活動を行っている愛好者の発表機会と鑑賞機会を設け、町の文化発展に寄与することを目的とする。						
概要	文化団体、町、農協、商工会等で構成する文化祭実行委員会が主催し、芸能発表、展示会、体験教室などの日頃から研鑽している文化活動の発表を社会教育総合センターを会場として行う。 入場者数 平成22年度 4,667人 平成23年度 4,378人 芸能発表 20団体171人 19団体157人 展示数 1,280点 1,176点			事業年度	開始 昭和38年度	終了 継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額 300	決算額 300	差引 0
検 証 内 容				評 価			
必要性	町内の文化愛好者が発表機会を得ることにより、町の文化発展に大きな効果が得られることから必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	町の文化発展に大きな効果が得られている。			A	A	A	
費用対効果	実行委員会への負担金のみで運営されており、少ない費用で町のイベントとして位置付けされており効果は大である。			(理由・説明) 町及び文化団体により実行委員会を組織して実施している。			
方向性	町の文化発展に大きく寄与しており、今後も継続していくことが必要。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	各関係団体・機関が、参画できるよう取り組みを進める。						
	改 善 策						
各関係団体・機関が参画できるよう実行委員会において引続き検討協議を進める。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	5 文化芸術の振興	細項目	② 上富良野町文化連盟活動事業補助				
目的	町民の文化向上と各単位団体間の連携と親睦を図る。			推進目標	町の文化振興		
概要	町文化連盟を中心に各単位団体が活発な活動を展開し、町総合文化祭においても、連盟役員が実行委員会に参画し、芸能発表や展示等の参加調整をしている。 文化活動の推進ばかりでなく、日頃の研鑽した活動を福祉分野においても展開している。 ※平成22年度 42団体 428名 ※平成23年度 44団体 451名			事業年度	開始	終了	
				昭和40年	継続		
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					140	140	0
検 証 内 容				評 価			
必要性	町の文化振興には必要不可欠と考える。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	町の文化発展に大きな効果が得られている。			A	A	A	
費用対効果	町からの補助金と登録料・会費等で運営されている。自主的に町のイベント及びボランティア活動に参画し効果は大である。			(理由・説明) 町の文化発展に大きな効果が得られている。			
方向性	町の文化発展に大きく寄与しており、今後も継続していくことが必要。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	文化連盟及び各文化団体の後継者不足、若年層（青年）が少ない。						
	改 善 策						
	<ul style="list-style-type: none"> ・文化連盟及び各文化団体における後継者の育成。 ・各団体の活動状況等を広報等により知ってもらうことで新規会員の獲得を図る。 						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	文化振興関係	細項目	③ 自主企画芸術鑑賞事業				
目的	町民が自主企画し、芸術・芸能・文化等の鑑賞機会を地域住民に提供する機会の充実を図ることの支援、また、地域住民の心に安らぎと潤い、豊かさをもたらすことを目的とする。			推進目標	団体育成の向上、地域住民への鑑賞機会提供の拡大を目的とする。		
概要	4団体が申請し、各団体で調整、運営し、地域住民に鑑賞機会を提供する。 実施内容 ・7/2(土) ピアノとバリトンの夕べ (音楽が大好きな仲間の会) 168名 ・10/10(日) 白いうた青いうたフェスティバル in 上富良野 (白いうた青いうたミニフェスティバル in 上富良野実行委員会) 261名 ・11/2(水) 東中ふれあいコンサート (東中ふれあいコンサート実行委員会) 180名 ・3/25(日) 町民福祉コンサート(歌三味) 50名			事業年度	開始	終了	差引
				事業費 (単位:千円)	平成11年度	継続	
検証内容				評価			
必要性	町づくり・地域づくりを図るにあたり、団体育成、地域住民に芸術・芸能・文化等の鑑賞機会の提供が必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	自主的に公演を企画・運営することで団体の活動向上となり、また、多くの地域住民が鑑賞に来ている。			B	A	B	
費用対効果	補助金と団体費用で実施。			(理由・説明) 地域の活性化、新たな生活文化の創造の意識高揚を図っている。			
方向性	今後も継続して実施。						
今後の取組み	今後の課題						
	事業実施団体が増加しているが、今後も他の団体・サークル等への情報提供が必要である。						
	改善策						
広報誌・防災無線により、自主企画芸術鑑賞事業の趣旨、要綱等の事前周知を充分に行い、事業に対する理解度を高める。実施団体の増加に伴い予算(補助額・予算計上額)に対して検討を進める。							

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	6 図書館運営	細項目	① 図書館管理運営					
目的	図書、雑誌、視聴覚資料等のメディアや情報資料を収集、保管し、利用者への提供を行う。また、読み聞かせ活動や講座を通じて、読書の普及を行う。				推進目標	幼児期から成人まで継続した読書習慣や様々な調査・研究等ができる資料の提供、また、地域の情報源となる図書館を目指していく。		
概要	図書・視聴覚資料の貸出し ※24. 3末現在 開館総日数 294日 閲覧者数 26,428人 1日平均 89.9人 貸出蔵書数 70,570冊 1日平均 240.0冊 人口一人当たり貸出冊数 6.0冊 蔵書数 43,284冊 読み聞かせ(保育所・幼稚園・子育てセンター・小学校3校) 映画会(2か月に1回)6回述べ122人、図書館まつり(2日間)604人 子ども読書推進計画(平成24~25年度)を策定				事業年度	開始	終了	
						昭和46年	継続	
					事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	差引
					6,688	6,494	194	
検 証 内 容					評 価			
必要性	図書館は町民に対して読書普及の推進や資料提供を行うため、不可欠である。				達成度	効果度	総合評価	
有効性	町民の読書や資料収集の場になっており、有効性は高い。				B	A	B	
費用対効果	図書購入費は必要最小限にし、寄付などによる蔵書を行っている。				(理由・説明) より多くの町民に利用してもらえるよう、あらゆる図書館事業の中で情報提供や周知を図っていく。			
方向性	今後も継続して実施。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の固定化や年齢層の偏りがあるため、幅広い町民が利用できる環境や情報提供を行う必要がある。 ・子どもの読書推進を進めていくため各関係機関と連携し、具体的な活動計画を作成していく必要がある。 							
	改 善 策							
<ul style="list-style-type: none"> ・時期(季節)に応じた特設コーナーの設置やホームページ等を活用し、様々な場面において情報提供を行い、町民が身近に感じられる図書館にしていく。 ・子ども読書推進計画に基づき、各関係機関と連携を図りながら読書普及を推進していく。 								

評価基準(達成度・効果度) A: 実践が進み成果を上げている B: 実践が進んでいる C: 実践に努めている D: 努力を要する
 評価基準(総合評価) A: 維持・拡大 B: 工夫・改善 C: 縮小 D: 整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	6 図書館運営	細項目	② ブックスタート	推進目標	すべての赤ちゃんと保護者に家庭での絵本に触れるきっかけづくりを目的に7か月児健康相談時に実施		
目的	すべての赤ちゃんと保護者に家庭での絵本に触れるきっかけづくりを目的に7か月児健康相談時に実施				すべての赤ちゃんと保護者に家庭での絵本を読むきっかけをつくる		
概要	健康相談を受けにきた親子1組に対し読み聞かせをする。 絵本のリスト(赤ちゃん絵本の紹介)及び図書館利用の案内を配布。 月1回、第4水曜日開催 9:00~10:30で、読み聞かせ会「ムーミン」の会より、2人の支援を受けている。 7か月児健康相談時 延べ85人 ※子ども読書推進計画(平成24~25年度)策定時に明確にする。			事業年度	開始	終了	差引
				事業費 (単位:千円)	平成16年	継続	
検 証 内 容				評 価			
必要性	赤ちゃんが保護者が家庭での絵本に接する時間づくりのきっかけをつくり、情緒を育む必要がある。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	絵本の持つ素晴らしさを読み聞かせを通じて伝え、絵本に興味をもってもらえ有効性が高い。			B	A	B	
費用対効果	ボランティアの支援で行っており、本に興味をもってもらうきっかけにつながっている。			(理由・説明) 図書館の利用案内や読み聞かせの意義を伝えることにより、図書館の利用につながり、読書普及につながっている			
方向性	今後も継続する必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	ブックスタート事業のパンフレットを作成し、保健福祉課との連携により、健康相談を受ける保護者に周知していただくことで理解いただき、利用につながっている。今後妊娠中から参考となる資料(ブックスタート)があると良い。						
	改 善 策						
妊娠期から絵本等を対象としたブックスタートパンフレットを作成する。							

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	6 図書館運営	細項目	③ 読み聞かせ会				
目的	幼児や児童とその保護者に対し家庭で自ら本を読むきっかけをつくる。			推進目標	すべて家庭で子どもが自ら本を読むきっかけをつくる		
概要	読み聞かせ（保育所・幼稚園・子育てセンター） 保育所・幼稚園・子育てセンター 述べ59回 述べ3,026人 ※読み聞かせ会「ムーミン」及び図書館職員が実施 小学校（上小・西小・江幌小）述べ100回 述べ3,286人 ※読み聞かせ会「ムーミン」及び「ものがたり文化の会」で実施			事業年度	開始	終了	
				事業費 <small>（単位：千円）</small>	平成18年	継続	
					予算額	決算額	差引
					30	26	4
検 証 内 容				評 価			
必要性	読み聞かせを通じて、幼児や児童に対し読書の習慣を身につけ、読書の関心を高め、読書意欲の向上と情緒を育む環境を推進する必要がある			達成度	効果度	総合評価	
有効性	参加する幼児や児童が増え関心が高まっており、有効性が高い。			B	A	B	
費用対効果	ボランティア及び職員で行っているため、費用対効果は高い。			（理由・説明） 読み聞かせの場面を通じて、本に興味をもつことができている幼児や児童が増えてきている。			
方向性	今後も継続する必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア員を育成する機会が少ない。 ・全ての学校で読み聞かせが実施できていない。 						
	改 善 策						
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア員の育成のため、ボランティア団体や一般町民向けの読み聞かせ講習会等を検討する。 ・全ての小学校（4校）で読み聞かせが実施できるように調整する。 							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	7 文化財・歴史の保存活用	細項目	① 指定文化財保存	推進目標	町にとって重要な文化財の適切な保存や活用を図る		
目的	北海道文化財保護条例の規定による指定を受けた文化財以外の文化財で上富良野町の区域内に存するもののうち、町にとって重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じることにより町民の文化的向上に資する。						
概要	現在、町文化財として3か所の保存・管理を行っている。 「憩いの楡」 西3線北29号 管理：町 「富原地区地神及び山の神」 東7線北24号 管理：富原住民会委託 「東中尋常高等小学校御真影奉置所」 東8線北18号 八幡神社境内 管理：町 平成22年度「憩いの楡」の遊歩道を整備 文化財保護委員会を設置し、文化財指定や管理についての会議を開催している。 町に37か所ある、埋蔵文化財包蔵地の管理を行っている。			事業年度	開始	終了	差引
				事業費 (単位：千円)	昭和47年	継続	
検 証 内 容				評 価			
必要性	町にとって重要な文化財産を保存・活用することは上富良野の歴史を知る上で必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	重要な文化財産を保存・活用する事で上富良野の歴史が学べ、有効性が高い。			B	A	B	
費用対効果	最小限の費用で保存しており、費用効果は高い。			(理由・説明) 現在、3か所の指定文化財があり、定期的に状態を確認している また、埋蔵文化財包蔵地37か所の管理を行う			
方向性	今後も継続する必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	定期的に埋蔵文化財包蔵地の表示板の点検が必要である。 指定文化財憩いの楡 開拓発祥の地の表示柱が老朽化している。						
	改 善 策						
<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財包蔵地の表示板の定期点検により補修が必要な場合は、速やかに行う。 指定文化財憩いの楡 開拓発祥の地の表示柱の修理を検討する。 							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	7 文化財歴史の保存・活用	細項目	② 郷土館収蔵物データ化				
目的	郷土館の収蔵物を紙台帳で保存しているため、収蔵物の情報が複雑になっており、データ化し情報の一元化がする。また、収蔵物の陳列や分類ごとに保管し、整理・整頓を行う。			推進目標	データ化する事によって、町民に対して収蔵物のデータを公開できる。また、合わせて収蔵物の情報が的確に管理できる		
概要	郷土資料分類内訳台帳及び収蔵カードの情報の確認作業 郷土資料分類内訳台帳及び収蔵カードの情報のPCへのデータ入力作業 各収蔵庫に所蔵されている収蔵資料の整理・整頓・仕分け作業 郷土館資料分類台帳及び収蔵カードの入力内容の確認作業 総数 25,591 点			事業年度	開始	終了	
					平成22年度	平成23年度	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					4,304	4,304	0
検 証 内 容				評 価			
必要性	郷土館の収蔵物をデータ化することにより、所蔵されている収蔵物の情報が容易にわかり、様々な事業などに活用できる。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	収蔵物データ化により、町民に対して郷土館の収蔵物の情報提供が行える。また、収蔵物の情報を児童生徒などの郷土学習に活用できる。			B	A	B	
費用対効果	緊急雇用創出事業により、国の補助より実施 (10/10)			(理由・説明) 郷土館収蔵物のデータ化により、収蔵物管理が的確に行える			
方向性	資料整理期間中は、新規の寄贈は受付しない。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	収蔵資料データ化により、資料の損傷及び重複している収蔵物が多数あり、収蔵スペースの確保の観点からも整理・整頓が必要である。						
	改 善 策						
	資料の損傷及び重複している収蔵物については、整理・整頓する。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	8 スポーツ振興	細項目	① スポーツ団体（体協）補助	推進目標	上富良野町内のスポーツ団体を総括し、本町のスポーツ振興とスポーツ精神の普及を図り、町民の健康づくりと明るいまちづくりに寄与することを目標としている。			
目的	上富良野町のスポーツ団体の組織運営や研修等を円滑に推進し、町のスポーツ競技力向上や発展を図りながら、スポーツ振興を図ることを目的とする。							
概要	各加盟団体の事業に関して協力、援助を行い、北海道体育協会、道北圏広域スポーツセンター協議会との連絡調整を行なっている。 町内のスポーツ指導者との懇談会を開催し、スポーツ指導者の育成に努めている。 加盟団体 19団体 会員数 1,750名			事業年度	開始	終了		
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
				620	620	0		
検 証 内 容				評 価				
必要性	町内のスポーツ団体を総括し、指導者の育成、加盟団体の事業に関する協力を行なうなどの活動をしており、今後もその必要性は大きい。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	町のスポーツ発展に効果は大である。			B	B	B		
費用対効果	町からの補助金と自主事業収入で運営を行なっており、加盟団体への補助、スポーツ教室の開催の支援など、限られた予算の中での効果は大きい。			(理由・説明) 町のスポーツ競技力向上や発展を図りながら、スポーツ振興を推進している。				
方向性	町のスポーツ振興への効果が大きいため、今後も支援（補助）を行なっていく。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	スポーツ指導者の育成・発掘への支援。 団体数、会員数が毎年減少しているため、団体数、会員の拡大を図る。							
	改 善 策 指導者の育成に関して、各加盟団体への協力・助成（研修会、講習会及び資格取得等）を行っていくことが必要である。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	8 スポーツ振興	細項目	② スポーツ教室の開催					
目的	各世代に応じたスポーツ教室を開催し、スポーツ活動の推進、競技力向上を図る。				推進目標	町民の健康増進、スポーツ活動の普及及びスポーツ競技力の向上を目標とする。		
概要	スポーツ教室を開催することにより、愛好者の拡大や初心者育成を図ることや、競技者間の親睦を深めるなどの効果がある。 【平成23年度実績】 初心者テニス教室 延べ96名参加、インドアゴルフ教室 43名参加 初心者ゲートボール教室 19名参加、少林寺教室 20名参加 銃剣道講習会 33名参加				事業年度	開始	終了	
					事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
検 証 内 容					評 価			
必要性	町内各スポーツ団体が自主的に行なうものであり、今後も続けていく必要はある。				達成度	効果度	総合評価	
有効性	スポーツ教室を通して、愛好者の拡大、町内スポーツの発展など有効性は大きい。				B	B	B	
費用対効果	本事業は総体事業の60%を補助しており、総体事業費から考慮すると費用対効果は大きいと思われる。				(理由・説明) 地域住民のスポーツ活動を積極的に進める			
方向性	今後も地域住民のスポーツ活動を積極的に進めるため、今後も補助を行なっていく。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	教室を行なうスポーツ団体が、一部固定化されている。							
	改 善 策							
引き続き体育協会を通じて、各種団体が本補助を活用し、積極的にスポーツ教室の開催を行なっていくよう支援する。								

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	8 スポーツ振興	細項目	③ スポーツ普及活動				
目的	生涯に渡り、スポーツを楽しむ環境づくりのために、町民ふれあいスポーツ大会の実施や体育指導委員活動での直接指導を行い、生涯スポーツ普及活動を推進する。			推進目標	生涯に渡り、スポーツをすることのできる環境づくり（各種大会、教室）を進めていく。		
概要	体育指導委員活動としては、年6回以上の会議の開催や町民に対して直接スポーツ指導や町民のためのニュースポーツの普及・研究などの活動を行っている。また、町民ふれあいスポーツ大会の実施などにより、町民が気軽に楽しめる生涯スポーツの実現を目指す活動を行ってきた。 町民ふれあいスポーツ大会実行委員会負担金 400,000 円			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				2, 207	2, 109	98	
検 証 内 容				評 価			
必要性	町民に直接スポーツ指導、スポーツ関連事業の企画・立案など、今後もその必要性は大いにある。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	ニュースポーツを主としたスポーツ大会実施など、町民が気軽に参加できる大会の実施など、体育指導委員やふれあいスポーツ大会などの有効性は大きい。			B	B	B	
費用対効果	体育指導委員としては、報酬・各種会議の費用弁償の支出が主であり、ふれあいスポーツ大会などは関係する競技団体の協力、参加費の徴収で町費の縮減に努めていることなど、現予算での費用対効果は大きいと思われる。			(理由・説明) ニュースポーツを主としたスポーツ大会実施など、町民が気軽に参加できる大会などを実施し、スポーツ普及活動を図る。			
方向性	今後も社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を持ち、熱意と能力を持つ者の中から、体育指導委員を委嘱するものとする。 今後もふれあいスポーツ大会実行委員会で町民のためのスポーツ大会を実施していく。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	ニュースポーツの研究、企画など今後の新しい取り組みが必要になってくる。 町民ふれあいスポーツ大会について、体育指導委員や各スポーツ団体との連携（大会準備、運営）が必要。						
	改 善 策						
各種研修会や講習会などに参加し、体育指導委員のスポーツに関する研鑽やニュースポーツの普及を行っていく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理等	細項目	① 各公民館分館管理運営	推進目標	地域住民の活動拠点をととして各分館を整備し、生涯学習を推進する。		
目的	社会教育法に基づき、一定区域内の住民を対象とし、生活にかかる教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上と、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。						
概要	1. 公民館分館の管理運営及び施設管理 (11 分館 4,575 千円) 公民館分館トイレ等改修工事 19,068 千円 2. 公民館各分館活動事業 (11 分館 1,159 千円)			事業年度	開始	終了	
					昭和 48 年	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					24,873	24,802	71
検 証 内 容				評 価			
必要性	地域住民の生涯学習の推進と地域コミュニティの持続のためには必要不可欠である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	地域活動の拠点として施設を利用するとともに、住民相互の親睦・交流と生涯学習の推進に大きな効果が得られている。			A	B	B	
費用対効果	町からの委託契約及び補助金等と住民会負担金等で管理運営されている。地域住民活動の効果は大である。			(理由・説明) 地域の住民による分館活動に大きく寄与しており、今後も継続していくことが必要			
方向性	地域の住民による分館活動に大きく寄与しており、今後も継続していくことが必要。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	各分館の施設管理について、委託契約と施設管理補助に分かれている各施設ともに過去の経過があり、今日を迎えているが結果として地域における住民負担に格差が生じていることから是正が必要である。						
	改 善 策						
	各分館の施設維持管理について、維持管理の方向性を検証し住民負担に格差が生じないよう検討を進める。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理等	細項目	② 公民館管理運営		推進目標	文化団体や教育団体などの団体が円滑に利用できるよう管理運営にする		
目的	実際生活に即する教育、学術および文化に関する各種の事業を円滑に行えるよう施設運営を図る。							
概要	文化団体や教育団体など町民の教育、学術および文化に関する各種の事業実施に伴う施設として活用する。 定期利用団体 30 団体 (H22 32 団体) 延べ利用者数 26,851 人 (H22 29,184 人) 延べ利用件数 1,594 件 (H22 1,677 件) 利用料 1,047,770 円 (H22 1,189,600 円) 大ホール机購入 50 台 1,759 千円				事業年度	開始	終了	
					事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	
						昭和46年	継続	
						13,794	13,497	297
検証内容					評価			
必要性	住民会、文化団体や教育団体など多くの町民が利用しており、必要性は高い。				達成度	効果度		総合評価
有効性	文化団体や教育団体など多くの町民の活動の場、地域の会館や避難所の役割もあり、施設の有効性は高い。				B	B		B
費用対効果	老朽化で施設の維持経費が年々増加しているが、利用者・利用料とも伸びており、また、地域の会館や避難所の役割もあり、費用対効果は高い。				(理由・説明) 多くの住民や文化・教育団体の利用があり、利用率は高い。より利用しやすい環境の整備を図る			
方向性	今後も継続して適切な管理が必要である。							
今後の取組み	今後の課題							
	・施設の老朽化 (S46 建設) のため、適宜補修を行う必要がある。							
	改善策							
・計画的に施設の維持補修を行う。								

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理等	細項目	③ 社会教育総合センター管理運営	推進目標	上富良野町の社会教育の拠点として誰もが使いやすい施設の維持管理に努めていく。		
目的	町民の社会教育活動の拠点として、適切に維持管理を行う。						
概要	センターの維持管理（警備、清掃）、センターの修繕、敷地内緑地の維持管理、整備 定期利用団体 年間延べ101団体（H22 延べ101団体） 延べ利用者数 69,874人（H22 67,154人） 利用料 1,319,570円（H22 1,524,885円）			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	
				27,420	27,373	47	
検 証 内 容				評 価			
必要性	適切な施設の維持管理は必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	建設後20年が経過しているが、大規模な修繕はなく、概ね良好な状態になっている。			B	B	B	
費用対効果	大規模な修繕に対しては、計画性を持って行うなど、費用対効果を考えながら施設の維持管理を行っている。			(理由・説明) 町民の社会教育活動の拠点として、適切に維持管理を行なう			
方向性	今後も年次計画に基づき、適時に施設の修理、補修など維持管理を行っていく。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	施設建設後、施設の経年による老朽化、近年の社会情勢の変化によるユニバーサル・デザインへの対応など、リニューアルが必要になってきている。						
	改 善 策						
施設を利用する誰もが使いやすく、利用しやすい施設とするために、各関係機関や団体などと協議を行い、年次計画に基づき施設のリニューアルを行っていく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理等	細項目	④ B&Gプール管理運営		推進目標	B&G海洋センターの利用により、町民が水に親しみ慣れ、水中のスポーツレクリエーション振興を推進する。		
目的	B&G財団から譲渡された海洋センターを利用して、町民が水に親しみ慣れることを目的とし、そのために適切な施設管理を行っていく。							
概要	【平成23年度実績】 子ども水泳教室 7日間開催 延べ 80名 親子水泳教室 6日間開催 延べ 124名 B&G水泳検定 5回開催 延べ 162名参加 B&G水泳記録会 14名参加 B&G海洋センター管理委託料（監視・清掃他） 5,037,900円 需用費 3,565,251円（消322,895 燃1,208,173 光1,231,802 修817,742） 北海道B&G海洋センター連絡協議会負担金 30,000円 その他 193,564円 ※B&Gアクアインストラクター受講(1名) 313,320円				事業年度	開始	終了	
					事業費 (単位：千円)	9,266	9,141	125
検 証 内 容					評 価			
必要性	町の水泳用プールとして、その必要性は大きい。				達成度	効果度	総合評価	
有効性	水泳スポーツ少年団活動や水泳連盟など子どもの水泳教室など、水泳スポーツ振興に大きな役割を成している。				B	B	B	
費用対効果	本事業に関する費用対効果は大きいと思われる。				(理由・説明) 水泳スポーツ振興に大きな役割を成している			
方向性	今後も海洋センターの維持管理や水泳スポーツへの支援などを行っていく。 また、B&G主催の会議、研修会などに参加していく。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	本年度において水泳指導者（B&Gアクアインストラクター）の養成を1名行ったが、水泳教室の指導者・水泳検定員の高齢化がすすんでおり引続き養成が必要である。							
	改 善 策							
指導者の育成について計画的にすすめる。								

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理等	細項目	⑤ パークゴルフ場管理運営				
目的	ニュースポーツであるパークゴルフを町民への普及を図る。また、上富良野町パークゴルフ場の管理を指定管理者制度の導入により、町民が利用しやすい施設として管理を行なっていく。			推進目標	ニュースポーツとして、パークゴルフの普及を図り、もって町民の健康増進に寄与する。		
概要	【平成23年度実績】 指定管理者委託料 4,100,000円（平成21年度～23年度 3カ年間） 役務費 32,985円 ※新規設置 AED使用料 62,142円 年間利用者数 27,625人（前年 28,572人）			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					4,197	4,196	1
検 証 内 容				評 価			
必要性	パークゴルフ愛好者が年々減少傾向にはあるが、施設の適切な維持管理は必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	パークゴルフ愛好者の施設として、その有効性は大きい。			B	A	B	
費用対効果	指定管理者制度の導入により、管理運営会社が適切な運営管理を行っていることなどから、その費用対効果は大きい。			(理由・説明) 今後も指定管理者制度により適切な施設の維持管理を行っていく			
方向性	今後も指定管理者制度により適切な施設の維持管理を行っていく。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	施設の経年劣化による維持修繕（年次計画の作成）。協会など愛好者からの現コース内に9ホール増設の要望がある。協会及び指定管理者から、コース整備等について教育委員会に相談があり、双方の意見等を調整する必要がある。						
	改 善 策						
施設維持のために、今後は年次計画を作成して、施設の適切な維持管理に努めていく。増設の要望に対して、コース内における安全性、国際 PG コース認定基準などから、現コース内に増設は困難であることを説明し理解を得た。利用者が増加し利用に支障が出る場合は、隣接地に増設を検討する。協会及び指定管理者、教育委員会との情報交換を実施する。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成23年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理等	細項目	⑥野球場改修(内野・スコアボード改修)					
目的	野球場競技の施設として、適切に維持管理を行う。 平成23年度利用状況 9団体 1,832名				推進目標	上富良野町の野球場施設として、使いやすい施設の維持管理に努めていく。		
概要	野球場整備にかかる事業【平成23年度実績 9,895,200円】 ① 野球場改修工事 5,548,200円 ② 散水用給水新設工事 2,236,500円 ③ 水抜栓取替工事 241,500円 ④ スコアボード改修工事 1,869,000円				事業年度	開始	終了	
					事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
						14,141	14,134	7
検 証 内 容					評 価			
必要性	適切な施設の維持管理は必要である。				達成度	効果度		総合評価
有効性	建設後35年が経過しており、維持管理上支障の出た部分の修繕を実施する。				A	A		A
費用対効果	大規模な修繕に対しては、計画性を持って行うなど、費用対効果を考えながら施設の維持管理を行っている。				(理由・説明) 野球競技の振興に大きな役割を成している			
方向性	今後も年次計画に基づき、適時に施設の修理、補修など維持管理を行っていく。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	施設建設後経年による老朽化に伴う対応など、計画的な整備が必要である。							
	改 善 策							
施設を利用する方が使いやすく、利用しやすい施設とするために、各関係機関や団体などと協議を行い、年次計画に基づき施設の整備を行っていく。								

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

教育行政評価委員会の意見等について

1 教育行政評価委員会の開催

教育委員会は、教育行政評価委員会の委員3名を委嘱し、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条第2項の規定により、教育行政評価委員会を8月23日に開催しました。

教育行政評価委員会では、事前に教育委員会から提出された資料(教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価項目19項目45細項目)について事務局側から説明を受けるとともに説明に基づき意見交換を行いました。

2 点検・評価報告書に基づいた意見

本件の「教育委員会点検・評価報告書」の内容については、上富良野町教育行政執行方針に基づき、適切に整理区分し点検評価表としてまとめられており、平成23年度の事務事業については、当初の目標どおりに執行され、総体的に評価できると考えます。

(1) 教育委員会の活動状況

教育は、個人的な価値判断や特定の党派的影響力から中立性を確保し、一定した方針の下に安定性と継続性が求められておりまた、地域住民にとって身近で関心の高い行政分野であることから、専門家のみが担うのではなく、広く地域住民の意向を踏まえて行われることが必要とされています。

教育委員会は独立した行政機関として5名の教育委員の合議制により、基本施策を選定し、具体的な事務については教育長が事務局を指揮監督して執行運営されているところです。

教育委員会の活動状況は、教育委員会議が13回開催され教育行政が遅滞することのないよう、定期的かつ必要に応じて会議が開かれ処理されていることがうかがえます。

また、各種行事等に参加するとともに、学校行事への出席や視察・訪問を行うなど学校教育活動の把握に努めている。さらに年間を通して研修会等に参加し教育委員としての研鑽にも努められていることから、適切に機能し、活動されていると考えます。

教育委員の学校訪問については、現場において生の声を聞くことは大変に重要なことであり、各学校の特徴や抱えている課題等を把握し、スピード感を持って対応されることを期待しております。

(2) 学校教育について

町内の小中学校においては教育委員会の教育振興基本計画等に基づく指導により、教育目標・重点目標・研究主題・研究計画等の指針に則して積極的に学校経営を推進しており、併せて学校評価や外部評価を導入し、課題を明確にして、指導実践を行っ

ており、事業が有効に機能していると考えます。

平成23年度北海道教育行政執行方針の中で学力は、全国平均を大きく下回り極めて深刻な状況にあることから「平成26年度の全国調査までに学力を全国平均以上」にすることを大きな目標として掲げられたこのことに関する当町の取組について説明を受けました。

平成23年度においては、各学校が全国学力調査結果等を踏まえて作成する学力向上プランに基づいた実践と教育委員会が作成する進んで学ぶ上富っ子「学習のすすめ」による家庭学習の大切さや仕方等学校と連携した中で啓発活動を進め、平成24年度においても夏休み等に希望する子どもに対してちょこっと学習等を実施されている。

基礎的・基本的な知識が確実に定着できるよう諸対策を継続的に実施され学力向上の目標が達成されることを願っております。

また、上富良野小学校の基本設計が策定され基本コンセプト等が広報で示され展望ホール・ユニバーサルデザインの採用・太陽光発電設備の設置・防災機能等を兼ね備えたすばらしい学校が建設されると期待しているところですが、一方で財政負担が大きいため他の学校施設等の整備に影響が出るのではと心配しております。

他の学校施設についての環境整備も計画的に事業が行われることを期待しております。

(3) 社会教育について

教育委員会の社会教育に求められるものは、個人の要求に応えることでなく、町全体として必要と考えられる学習内容に関する企画立案、各種団体の育成であります。

各種事業は、社会教育推進計画に基づき推進されており、適切に機能していると考えます。

平成23年度子どもの自主的な読書活動が日常習慣となるよう「上富良野子ども読書推進計画」と行動計画が策定されました。

読書により読解力・文章力・コミュニケーション能力等の向上が期待され結果として学力の向上にも繋がると考えます。計画に沿って実践活動を確実に実施されたい。

また、社会教育施設の環境整備についても全体計画の中で、適切に事業が行われることを期待しております。

資料 1

上富良野町教育委員会教育行政評価委員会要綱

(設置)

第 1 条 上富良野町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、簡素で効率的な教育行政の推進について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、上富良野町教育委員会教育行政評価委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 委員会は、教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べることを所掌事務とする。

(構成)

第 3 条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する 3 名の委員をもって構成する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度までとする。

(運営)

第 5 条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 委員会は、必要に応じて委員長が召集する。

4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、教育委員会事務局が行う。

附 則

1 この要綱は平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

2 最初の委員会は、第 5 条第 3 項の規定にかかわらず、教育長が召集する。

資料 2

教育行政評価委員会の構成

委員長 本田 邦 光
副委員長 安 川 美音子
委 員 林 敬 永

社会教育委員の会議 委員長
町女性連絡協議会 前会長
町PTA連合会 会長

資料 3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号）

最終改正：平成 19 年 6 月 27 日法律第 98 号

改正内容：平成 19 年 6 月 27 日法律第 98 号（平成 14 年法律第 63 号への改正）〔平成 20 年 4 月 1 日〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

資料4

平成23年度 教育行政執行方針

平成23年第1回定例町議会の開会にあたり、上富良野町教育委員会の教育行政の執行にかかわる主要な方針について申し述べ、町議会をはじめ町民の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

■ はじめに

テレビ放送の地上デジタル化への切り替えが、この7月より完全実施されることから、3Dテレビをはじめ携帯電話や電子辞書などの機能は驚くほどの進化を遂げ、パソコンにいたっては、今や、仕事ばかりか一般の生活の中においても必需品といえる時代に突入しています。

この利便性を追求する流れは、今後ますます加速していくことが容易に想像できるところでありますが、反面、経済不況の流れは収まることなく、雇用不安や給与の削減、デフレなど、生活に直結する問題が多数継続しており、出口のなかなか見えない世情が続いています。

教育においても、小学校はいよいよ新学習指導要領が完全実施となり「子どもたちのさらなる生きる力の育成」をめざして「より質の高い教育」を実現しようとしているところでありますが、全国的な子どもたちの現状は、学力・体力の低下や家庭での虐待、学校でのいじめやそれによる不登校、さらには痛ましい自殺などが後を絶ちません。

このような状況を断ち切るためには、互いに連携し、知恵を出し合い、粘り強く問題解決に立ち向かう「賢くたくましい」人材の育成を強力に推進していかなければなりません。このことを当町教育行政の最重要課題とし、学校教育・社会教育のすべてにおいて取り組んでまいりたいと考えております。

そのために教育委員会といたしましては、町民憲章を踏まえ、先に策定した「上富良野町教育振興基本計画」並びに「教育目標」を基本として、自然豊かな地域の素材や人材を生かし、家庭・学校・地域が一体となった教育活動を大切に「次代を担う豊かな人づくり」を推進してまいります。

また、各施策の点検管理や執行状況を明らかにする「教育委員会評価」を行い、その取り組みをより効果的かつ、円滑に推進するよう努めてまいります。

■ 学校教育の推進

学校教育においては、「新学習指導要領」並びに「上富良野町教育振興基本計画」を念頭に置き、「賢くたくましく生きる力」をもった子どもたちの育成のために「確かな学力」と「豊かな心」、「たくましい体」の向上を目指してまいります。

「確かな学力の向上」につきましては、過去4回の全国学力・学習状況調査などの

結果において、当町の子ども達は全国平均にほぼ近い状況にあり、年度によってはそれを上回ることもみられています。これらのことから、基礎的学力や基本的な生活習慣の定着を確認することができます。しかしながら、国語の読解力や文章表現力、算数・数学の空間図形の理解や数学的な思考など、活用力・応用力においてはまだまだ課題が残っている状況でもあります。その課題の解決にむけて、引き続き基礎基本の定着と、それを活用した思考力・読解力・表現力などを向上させる取り組みを進めてまいります。

そのために、各学校においては、「全国学力学習状況調査」や「学校評価」などの結果をもとに、児童生徒の実態を踏まえながら独自の「学力向上プラン」を作成し指導強化への取り組みを進めているところであります。

また、当町においては子ども達の状況を引き続き検証していく必要があると判断し、全国学力学習状況調査を北海道と連携を図りながら、本年度も4月19日に町内全校で実施を予定しております。

さらに、表現力などの向上や家庭学習の充実を推進するため、学校・家庭・地域との連携協力を図りながら取り組んでまいります。

「豊かな心の育成」につきましては、道徳の時間を要として、お互いを尊重し支え合う態度や倫理観・規範意識そして自他の命の尊重など、当町の子ども達に定着しつつある「心」をさらに向上させる取り組みを推進してまいります。そのために、道徳教材の整備はもとより、総合的な学習の時間や特別活動の充実とキャリア教育の一環とした職場体験学習などを通し、多様な体験活動を促進させ、より多くの自然や人とのふれあいを深めて「心の教育」の推進に努めます。

また、「いじめ」などの防止に向けては、学校・家庭・関係機関との連携を密にし、各種の調査やアンケートなどを活用して、早期発見・早期の解決に努力してまいります。

「たくましい体づくり」につきましては、体力の向上を図るとともに、健康への意識や安全への意識の醸成などの望ましい生活習慣の向上に努めてまいります。

そのために、保健や体育の授業の充実はもとより、家庭や地域と連携しながら「早ね・早おき・朝ごはん」など、基本的な生活習慣のさらなる定着を推進してまいります。また、体力・運動能力ばかりでなく、自主性や協調性・忍耐力を高める少年団活動や部活動への支援にも努めてまいります。

新学習指導要領の完全実施につきましては、平成23年度から小学校が完全実施となりますが、改定に伴う全ての準備が整い、円滑なスタートを切るところであります。中学校においては平成24年度からとなっており、これからの1年間で、残る準備に万全を期してまいりたいと考えております。

以上の様々な方策とともに、開かれた学校・信頼される学校づくりをめざすために、

家庭や地域の声をとり入れる外部アンケートの実施や学校関係者評価委員会、学校評議委員会などを通して、多くの声を生かした「充実した学校評価」の実施を推進してまいります。

児童・生徒の指導等につきましては、いじめや不登校、器物破損・暴力・薬物・虐待などでの問題が各地で依然としてあとをたちません。当町においては、学校・家庭・地域の努力と連携により、それらの事例は、継続して比較的少ない状況にあります。しかしながら、それぞれの問題の要素は今の時代において、どこにでも存在し、油断すると一気に崩れていくことが多々あることも事実です。

そうならないために、先に述べた「豊かな心の育成」への方策とともに、各校の日常教育活動において「子どもと子ども」「子どもと先生」の信頼関係のさらなる醸成を進めてまいります。

その手だてとして、教職員の指導力・人間力を高める「研修」の充実と、子ども達の日線にたった「教育相談体制」の充実を図ってまいります。上富良野中学校には引き続き「心の教育相談員」を配置するとともに、必要に応じて学校教育アドバイザーを保護者・地域との教育相談にも対応させてまいりたいと考えております。

また、中学校が行っている「薬物」や「携帯電話」にかかわる防犯教室の実施にも必要な支援を行ってまいります。

へき地・複式教育につきましては、地域の特色を生かし、個に応じた指導により、児童生徒の健全育成に効果をあげているところです。小規模校ならではの教育を今後とも継続してその充実を図ってまいります。

そのため、各校の特色ある取組や行事等への支援はもとより、へき地・複式教育の研究を進めている「上川南部地区へき地複式研究連盟」への積極的な支援も行っています。

江幌小学校においては、地域と一体となった特色ある教育を望む児童が、学区域をこえて就学できる「特認校」として、継続してその運営推進と情宣に努め、さらなる発展を目指してまいります。

また、他市町村と同様に当町においても児童生徒の減少は大きな課題となっており、職員定数が減となる東中中学校には校務の円滑化を図るため、町費で事務職員を配置いたします。

特別支援教育につきましては、障がいのある子ども達一人一人の教育的ニーズに対応した校内体制の整備をさらに進めるとともに、その指導法の充実に継続して努めてまいります。

そのため、個々のニーズに対応した人的支援が重要であることから、本年度は上富良野小学校と上富良野西小学校のほかに上富良野中学校にも「特別支援教育指導助手」を配置し、指導体制の充実を図ってまいります。また、上富良野小学校には、「病弱学級」の新設を行います。

さらに、上富良野町特別支援教育連絡協議会や就学指導委員会の活動を通して、関係者の連携や研修の機会を持ち、指導の充実と今後に向けた自立や進路・社会参加への支援を積極的に行ってまいります。

学校の危機管理につきましては、学校の内外を問わず、子どもを取り巻く悲惨な事件や不慮の事故などがあとを絶ちません。

当町においては、学校での日常の校内点検励行を促すとともに、情報交換の機能を密にするため、事件・事故等発生時の対応及び連絡経路について関係機関との共通理解と連携を図り、継続した取り組みを進めてまいります。

住民会・町内会による登下校時の「見守りパトロール」をはじめ、「上富良野の青少年健全育成をすすめる会」や「生活安全推進協議会」など、地域総ぐるみでの協力体制を今後とも継続してまいります。また、状況に応じて各校教職員や教育委員会職員などによるパトロールも実施し、子ども達にかかわる安全確保、事件・事故発生の予防に努めてまいります。

教育環境の整備につきましては、国のスクールニューディール構想推進事業を受け、各学校や公共施設のテレビのデジタル化と校務用コンピューターの整備を行ってまいりましたが、本年度は、東中小学校のコンピューターの整備・更新を推進してまいります。

また、耐震診断に基づき、上富良野小学校校舎の改築基本設計及び上富良野西小学校体育館の耐震改修実施設計を実施し、安全・安心な学校環境の整備を図るとともに、教材備品の拡充を図るなどの学習環境整備も継続して取り組んでまいります。

学校給食につきましては、平成21年度から「富良野広域連合組織」による運営がなされております。

四季折々の新鮮な食材、旬の味覚を味わうことができる地場産食材を活用した「顔の見える学校給食」の提供とともに、施設設備の衛生管理・安全管理を徹底し、「安全でおいしい給食」の提供に努めてまいります。

また、時代の変化による食べ残しや偏食などの問題に対し、「もったいない」をスローガンとして、その運動推進に取り組んでまいります。

食育の一貫として行っている「お弁当持参の日」は、家庭の協力・家庭の工夫など、親子の絆につながるものとして今後も継続してまいります。また、栄養士による学校訪問も引き続き実施し、食事の意味・栄養バランスの大切さ・食事のマナーなどの指導を、学校との連携を図りながら充実させてまいります。

国際理解教育につきましては、現在、友好都市でありますカナダ・アルバータ州カムローズ市から英語指導助手を迎えて、学校教育・社会教育の両面で小・中学校の授業やサークル活動を通して国際理解教育の推進を図るとともに、上富良野町とカムローズ市との交流発展に努めているところです。

また、新学習指導要領による小学5年生・6年生の「外国語活動」においてもさら

なる有効な活用を計画してまいります。

さらに、幼稚園・保育所への訪問や英会話教室などを利用し、幼児も含めた町民の皆様にも、国際理解の輪を広げていただけるよう、その推進に努めてまいります。

姉妹校交流推進事業につきましては、平成9年7月の「上富良野西小学校」と三重県津市の「安東小学校」の姉妹校提携調印以来14年目を迎えますが、本年度は、西小学校から安東小学校への訪問を実施し、両校の交流と見聞をさらに深いものにしてまいります。

道立上富良野高等学校の振興につきましては、生徒数の確保が年々難しく、その存続を危ぶむ声が多方面から聞こえてくる状況でありましたが、昨年度においては高校の努力はもとより、「上富良野高校教育振興会」「上富良野高校サポーターズクラブ」や「上富良野高校野球部を応援する会」など地元関係各位の様々な努力をいただき、定員を上回る入学生を確保することができました。

このことを上富良野高校存続の追い風として、上高生の学力向上や進路指導対策にむけて、新たにビデオ・オン・デマンドシステムの導入を支援してまいります。

地域に根ざした高校の存在は、子ども達や当町にとって大きな影響力を持っています。今後とも、この望ましい傾向を持続していくために、従来の資格取得の受験料補助などの支援はもとより、様々な支援策を模索しながら上富良野高校の振興・発展を目指してまいります。

■ 社会教育の推進

社会教育の推進につきましては、公民館や図書館、社会教育総合センターなどの社会教育施設を活用しながら、町民ひとりひとりに、生涯にわたって自主的に学ぶ機会を提供し、社会教育基本方針にある「豊かな心と健やかな体を育み、潤いある地域づくりをめざす生涯学習」のさらなる推進に向けて、社会教育をすすめてまいります。

そのために、平成21年度に施行された第7次社会教育中期計画を基にし、家庭・学校・地域社会のそれぞれが持つ教育機能の充実や連携・融合を図りながら、具体的方策の実施・実現を進めてまいります。

家庭教育につきましては、家庭こそ、子ども達の人格形成に必要な「基本的生活習慣」と「調和のとれた心身」を育む教育の原点であります。このことから、「早ね・早おき・朝ごはん」運動などを通して、食事や睡眠などの大切さの理解を図り、「親子の絆」と「健やかな子育て」の向上をめざして、多様な学習機会や情報の提供と、本の読み聞かせや芸術鑑賞などの情操を豊かにする取り組みなど、地域の教育力も活用させていただきながら、その充実を図ってまいります。

また、家庭教育学級や子育てサークルなどを通しての相談活動や交流活動・スポーツ活動などを積極的に支援し、明るく安心して子育てを進められる家庭づくりに努めてまいります。

さらに、毎月第3日曜日の「道民家庭の日」の啓発や普及促進を図り、当町の家庭の教育力のさらなる向上を推進してまいります。

青少年教育につきましては、次代を担う青少年のスポーツや文化活動の推進を図るため、子ども会やスポーツ少年団、青少年団体協議会などの自主的活動を尊重し、継続して支援・協力を行ってまいります。

将来の地域のリーダーづくりを目指して、「なかよしサミット」や「青少年交流事業」などを通して、小・中・高校生を対象とするジュニアリーダー育成事業を推進してまいります。

また、地域・PTA・関係機関の協力をいただいている「学校支援ボランティア」の活動や「青少年健全育成をすすめる会」などによる活動を通して、青少年が健やかに育つ環境・町づくりを継続して行ってまいります。

放課後プラン事業につきましては、保護者・学校・地域などに理解を得ながら、子ども達の放課後の「より安全で安心な居場所づくり事業」として放課後スクールと放課後クラブを引き続き運営してまいります。

地域の方々のさらなるご協力を得ながら、学校や保健福祉部局と連携し、上富良野の子ども達を健全に守り育てる事業として推進してまいります。また、この事業をより円滑にするにあたり、日々子ども達のお世話をいただく人材の確保に、今後とも努めてまいります。

成人・高齢者教育につきましては、成人の方々の自主的なサークル活動への支援と各種学習機会の開設などに取り組み、その学習活動の活性化に努めてまいります。

成人女性を対象とした女性学級と、「若く老いよう」を合言葉にした高齢者対象の「いしずえ大学」を引き続き開設し、健康で明るい生活を築く学びの機会を提供するとともに、生きがいづくりと社会参加の促進を図ってまいります。

また、「いしずえ大学生」が自主的に運営する自治会活動の支援をしてまいります。

さらに、成人者や高齢者の方々が培った知識や技能を、各種の学習活動・体験活動に生かし伝えていただくなど、積極的な関わりの中で、学びあい支え合う人づくり・町づくりを進めてまいります。

文化芸術の振興につきましては、人々の心に安らぎと潤いをもたらすことを目標に、美術展覧会や音楽・舞台芸術の公演などを文化団体や愛好者と連携し、優れた芸術・芸能・文化に触れる機会の充実を図ってまいります。

また、町民の皆様が心の豊かさを求めて日常的に練習を行っている文化芸術活動の発表の場として、子どもから大人までを対象とした総合文化祭を開催し、自主的な発表の機会を支援するとともに、地域文化の継承と発展を目指してまいります。

図書館の運営につきましては、蔵書検索システムを活用し、道立図書館や近隣図書

館などとの連携により、引き続き利用者の利便性を図ってまいります。

また、町内小・中学校の学校図書室と図書館が情報を共有し、図書の有効活用を図ってまいります。

子ども達の読書への関心を高めるため、児童書の充実を図るとともに、本とふれあう機会の拡大をめざし、乳児期には絵本に触れるきっかけづくりのブックスタートや各小学校等への移動図書活動を継続してまいります。また、読み聞かせ活動など、本を活かした学習活動に協力いただいているボランティア団体への活動支援も引き続き行ってまいります。

本年度は、「子ども読書推進計画」を策定し、子どもがその成長に応じて読書に親しめる環境づくりなど、読書推進活動に必要な方策を講じてまいります。

様々な機会を通して、町民の皆様のご意見・ご希望を広く聞き、「町民に親しまれる図書館」をめざして、今後とも取り組んでまいります。

郷土館につきましては、昨年度の収蔵物情報のデータ化をさらに進め、その整理を行い、郷土学習に活用が図られるようインターネットなどを通じて情報提供をしてまいります。

また、総合文化祭で「郷土館特別展示」を開催し、多くの町民の皆様にご観覧いただき、郷土の歴史などについての造詣をさらに深めていただけるよう、充実に努めてまいります。

スポーツ振興につきましては、スポーツは、人格の形成、体力の向上や心身の健康保持増進に寄与するとともに、私たちに多くの夢や大きな感動、楽しみを与え、活力に満ちた社会を形成する上で欠かすことのできない大切な役割を果たしております。

このため、それぞれの体力や年齢に応じた多様なスポーツや体力増進に取り組むことができるよう、各種スポーツ大会を開催するほか、地域や各スポーツ団体との連携を図りながら、指導者への支援を行います。また、競技スポーツの競技力向上や各種スポーツ団体の自主的な活動の支援に努めてまいります。

スポーツ施設の管理運営につきましては、利用者ニーズの多様化に応え、施設の有効利用が図られるようスポーツ団体や地域との協議を行い、適正な管理運営を目指します。また、学校の協力のもと引き続き学校開放事業を実施してまいります。

社会教育施設につきましては、町民の社会教育活動の場として、本年度は、公民館大ホールの机の更新、運動公園多目的広場・野球場の整備など、施設の適切な維持管理をはじめ、指定管理者や関係団体との連携を十分に図りながら、多くの町民の方々に利用していただけるよう努めてまいります。

■ おわりに

以上、平成23年度の教育行政の執行に関する主要な方針について申し上げましたが、本町の教育・文化・スポーツの振興と生涯学習社会の構築と「豊かな人づくり」

向けて最善の努力を傾けてまいります。

議員並びに町民皆様のご支援とご協力をお願い申し上げまして、教育行政執行方針といたします。

平成23年3月7日

上富良野町教育委員会